

# 倉敷埋蔵文化財 センター年報 7

—平成11(1999)年度—

倉敷埋蔵文化財センター

2000.11

# 序

倉敷埋蔵文化財センターは、倉敷市における埋蔵文化財保護の拠点施設として、平成5年4月に開館して以来、今年で8年目を迎えました。この間、当センターでは、開発事前協議、工事に伴う発掘調査を通して埋蔵文化財の保護・保存を図るとともに、各種講座・講演会など、様々な事業を通して埋蔵文化財に対する知識の普及・啓発にも力を注いでまいりました。

当センターの平成11年度事業を振り返って見ますと、緩やかな景気回復を反映してか、開発事前協議の件数が増加し、埋蔵文化財に係る開発工事の件数にも増加の兆しがうかがえます。ここ数年、減少傾向にあった開発に伴う遺跡の破壊・消滅が、こうした動きを受けてふたたび増加へと転じぬよう、より一層の努力が必要な時代が近づいてきているのではないかと思います。

普及・啓発事業については、ほぼ前年度並の講座を実施し、どの講座についても好評をいただきました。今後も生涯学習に対して多様化する市民ニーズの反映に心がけ、あらたなプログラムの開発に力を入れてまいりたいと思っております。

本年報は、平成11年度に実施した発掘調査事業並びに普及・啓発事業の概要をまとめたものです。埋蔵文化財保護の一助として、また、埋蔵文化財に対する一層の理解を深めていただくために、いささかでもお役に立つものとなっていれば幸いに存じます。

末筆では有りますが、各事業の実施にあたり、ご指導ご助力を賜りました関係の皆様に、厚くお礼申し上げますとともに、今後ともより一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

平成12年11月30日

倉敷埋蔵文化財センター  
館長 武田俊宏

## 例　言

1. 本書は、倉敷埋蔵文化財センターが平成11(1999)年度に行った、埋蔵文化財保護行政の概要についてまとめたものである。
2. 発掘調査は、倉敷埋蔵文化財センター主任鍊谷守秀・同学芸員小野雅明・藤原好二・中野倫太郎・片岡弘至が担当した。
3. 調査事業報告において、調査報告としているものについては本報告をもって正報告とする。
3. 本書の執筆は各担当者が分担して行い、調査事業報告についてはそれぞれ文責を記した。全体編集は藤原が行った。
4. 出土遺物の整理は倉敷埋蔵文化財センターで行い、整理にあたっては、内田智美・大江久仁子・洲脇奈奈・石井恵子の協力を得た。
5. 調査地位置図で使用した地形図は、倉敷市発行の50,000分の1の都市計画図を縮小したものであり、その他の位置図に使用したのは、倉敷市発行の都市計画図を複製または縮小したものである。
6. 本書に関する実測図・写真・遺物等は、全て倉敷埋蔵文化財センターで保管している。

# 目 次

I 組 織	1
II 事業の概要	2
III 普及・啓発事業報告	4
1. 一般講座	4
2. 調査速報展	8
3. ライフパークの集い	9
IV 調査事業報告	10
福田貝塚確認調査報告	13
岩滝山遺跡確認調査報告	14
寒田窯跡群 4号発掘調査概要	15
上東遺跡発掘調査概要	18
V 寄贈図書一覧	20
附編	
山本慶一氏寄贈の資料 I	33

## I 組 織

埋蔵文化財センターは、生涯学習施設であるライフパーク倉敷の中の一施設として、市域内の埋蔵文化財に係る業務を一括して担当している。1999年度における埋蔵文化財センターの組織及び人員は下記のとおりとなっている。

倉敷埋蔵文化財センター機構図



ライフパーク倉敷 所長	能登 康行
埋蔵文化財センター館長	武田 俊宏
" 主 任	福本 明 (岡山県へ研修)
" "	鍵谷 守秀 (科学センター学芸員兼務)
" 学芸員	小野 雅明
" "	綾野 早苗
" "	藤原 好二
" "	中野 倫太郎 (文化財保護課学芸員兼務)
" "	片岡 弘至
" 嘱 託	内田 智美
" 臨時職員	大江 久仁子
" "	洲脇 奈奈
" "	石井 恵子

(職名等は 2000 年 3 月 31 日現在)

### 平成 11 年度 埋蔵文化財センター運営協議会

会 長	間壁 忠彦 (学識経験者)
副会長	河本 清 (" ")
委 員	小野 正夫 (小学校校長会代表)
"	北村 精三 (中学校校長会代表)
"	若林 憲明 (高等学校校長会代表)
"	古谷野寿郎 (学識経験者)
"	池田三重子 (" ")
"	宮口 公子 (" ")

## II 事業の概要

### 1.埋蔵文化財センター運営協議会

(1)協議会 平成11年7月13日(火) 会場：ライフパーク倉敷「第3会議室」

- 議事 1.平成10年度埋蔵文化財センター関係事業報告について  
2.平成11年度埋蔵文化財センター関係事業計画について  
3.その他

### 2.調査事業

(1)発掘調査 今年度は全面発掘調査2件、確認調査9件、立会調査15件を実施した。このほかに、開発面積が1,000m<sup>2</sup>を越える事業についての事前協議は88件で、昨年からそれほど増加してはいない。

(2)分布調査 前年度に引き続き児島地区を中心として行った。135遺跡を踏査し、遺跡台帳をパソコンに入力。

### 3.普及・啓発事業

#### (1)講座・速報展

タイトル	開催日	回数	延べ人数
春の遺跡見学会④	99.5.8	1回	35人
夏休み親子考古学教室	99.8.5	1回	30人
古代の謎を解く自然科学	99.10.24	1回	41人
中世・戦乱と庶民の時代	99.11.5・11.12・11.19	3回	89人
親子ふれあい隊	00.1.23・1.30	2回	26人
古代ガラスの博物誌V	00.3.4・3.5	2回	68人
発掘調査最前線！！	00.3.19	1回	20人
速報展「寒田窯跡群4号」	00.3.1～00.3.31	—	1,345人

#### (2)出前講座等講師派遣

派遣内容	依頼団体	開催日	人数
校外授業・遺跡見学	皆生小学校	99.4.15	110人
庄地区・吉備路遺跡見学会	旭化成工業	99.5.29	17人
倉敷の歴史講座	多津美公民館	99.6.17	22人
古代の土笛作り	庄公民館	99.7.27	39人
古代の土笛作り	玉島南小学校にこにこクラブ	99.9.10	34人
施設見学会・櫛築遺跡	公聴広報課	99.9.28	50人
古代の土笛作り	ひまわりの園	99.10.24	5人
古代の土笛作り	児島児童館	99.11.27	19人
遺跡見学会・櫛築遺跡他	総社市中央公民館	99.11.30	14人
古代の土笛作り	第5福田小学校母親委員会	00.1.22	26人
寒田窯跡群4号調査成果説明会	玉島文化協会	00.1.29	27人
下津井城跡見学	兵庫県御津町教育委員会	00.2.10	4人

(3) 報告書等の刊行

倉敷埋蔵文化財センター年報6 -1998年度-

A4版 本文38P 700部 1999年7月刊行

古城池南古墳 -倉敷市埋蔵文化財発掘調査報告第9集-

A4版 本文24P 図版13P 700部 2000年3月刊行

(4) 貸出資料

年月日	貸出先	資料名	点数
平成11年 4月 5日	奈良県立橿原考古学 研究所附属博物館	秦原廃寺 軒丸瓦 モロコワリント	4点 4点
7月 27日	岡山県立吉備路郷土館	秦原廃寺 軒丸瓦	1点
12月 10日	社団法人 共同通信社 大阪支社 社会部	矢部遺跡 龍形土製品 ボジフィム	1点
2月 9日	山陽図書出版株式会社	橋築遺跡 ボジフィム 弧帶石 ボジフィム 軒丸瓦 ボジフィム	1点 1点
平成12年 3月 13日	さいたま川の博物館	秦原廃寺 矢部遺跡 龍形土製品	1点

4. 寄贈資料

年月日	寄贈者名	資料名	点数
平成11年 6月 9日	大川久悦	酒津地区の古墳 鉄刀 土鍤 紡錘車	1点 1点 1点

5. 利用者数

展示・講座等を含めた今年度の利用者数は下表のとおりである。開館日数294日に対し入館者数は12,921人で、1日平均43.9人が利用していることになる。総利用者数は前年度比プラス1%で昨年並みの入館者数が維持された。

【平成11年度利用者集計表】

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
開館日数	25	24	26	26	26	24	26	23	22	22	24	26	294(日)
入館者数	一般	470	804	380	442	998	439	558	598	185	377	376	6,434(人)
	児童	592	870	622	476	1,291	363	808	206	191	225	305	538 6,487(人)
	合計	1,062	1,674	1,002	918	2,289	802	1,366	804	376	602	681	1,345 12,921(人)

### III 普及・啓発事業報告

#### 1. 一般講座

##### 1) 春の遺跡見学会④

～吉備路風土記の丘周辺の遺跡～

講 師 藤原好二

日 時 平成11年5月8日(土)

対 象 一般

参 加 者 35人



春の遺跡見学会第4回目は、県内でも遺跡の多く見られる吉備路風土記の丘周辺を訪ねた。以前の参加者からも今後の要望としてあげられていた場所である。

当日は陽射しもさわやかで、宿寺山古墳をかわきりに国分尼寺・吉備路郷土館・こうもり塚古墳・作山古墳などを見学した。国分尼寺では古代の人々の信仰に思いをはせ、作山古墳ではその巨大さに圧倒される一日であった。



##### 2) 夏休み親子考古学教室

日 時 平成11年8月5日(木)

会 場 少年自然の家

対 象 小学校高学年と保護者

受 講 者 30人



毎年恒例の講座であるが、今回は火おこしの道具である「まいぎり」作りは行わず、土器によるご飯炊きのみを実施した。

内容は、「まいぎり」による火おこしと、土器を使ったご飯炊きとみそ汁作りで、毎回その残り火で鶏肉のホイル包み焼きも行っている。

この講座では、ご飯には赤米を混ぜ、食材はサヌカイトの石包丁で切るなど、「古代体験」に配慮しており、竹で作った食器やコップ・箸なども参加者に好評であった。



### 3) 古代の謎を解く自然科学

講 師 北野信彦  
日 時 平成11年10月24日(日)  
会 場 ライフパーク倉敷「中ホール」  
対 象 一般  
受 講 者 41人

近年の考古学においては、自然科学的研究がめざましい成果をあげている。土中の花粉の分析により古代の自然環境を再現したり、漆器の材質を分析し、製作技法の解明に役立てたり、また、トイレの遺構から古代人の食生活や病気を見つけたり、幅広いジャンルで様々な取り組みがされ、古代の謎が次第に解き明かされてきた。本講座では大阪府三ツ塚古墳から出土した修羅の十数年におよぶ保存処理やイースター島の調査の模様など最新の成果をお話頂いた。

考古学ファンだけでなく、科学関連の受講生も多く、考古学の新たな成果を熱心に聴講する姿が見られた。



### 4) 中世・戦乱と庶民の時代

講 師 第1回 加原耕作  
「備中松山城の築城と修築」  
第2回 山本悦世  
「鹿田遺跡と鹿田荘」  
第3回 鈴木康之  
「発掘された中世の町」  
日 時 平成11年11月5日・12日・19日(金)  
会 場 ライフパーク倉敷「視聴覚ホール」  
対 象 一般  
受 講 者 89人(延べ人数)

今回の考古学講座では、中世という時代に焦点を当て、文献史学と考古学の両側からみた当時の権力者の動向や庶民の暮らしづくりについての講演を賜った。

第1回目は岡山県立博物館の加原耕作氏による講演で、備中松山城に関する史料をもとに戦国武将たちの



動向をたどった。戦国時代の城は、石垣をほとんどもたず土塁によって構成されるが、安土城の築城以降に石垣、天守閣をもつ城郭が生まれる。備中松山城主の変遷や築城・修復の歴史を絵図によりわかりやすく解説していただいた。

第2回は岡山大学埋蔵文化財調査研究センターの山本悦世氏による講演で、鹿田荘の実態にせまつた。鹿田荘は、現在の岡山市街地南部に位置し、摂関家である藤原氏との関連が深い荘園である。生産力豊かで、物流の要衝に所在する荘園として重要視されたことが文献史料によって示され、それを裏付けるような発掘調査の成果が解説された。

第3回は広島県立博物館の鈴木康之氏により、考古学からみた中世の町についての講演をお聞きした。30余年間にわたる福山市草戸千軒町遺跡の発掘調査により、日常生活のようすから広範な人や物の交流、商業活動の実態が浮き彫りにされ、中世地域史に関する重要な情報を提供していると説明された。



## 5) 親子ふれあい隊

～土笛をつくろう～

講 師 鍋谷守秀・片岡弘至

日 時 平成12年1月23日・30日(日)

会 場 埋蔵文化財センター「遺物整理室」

対 象 小学生と保護者

受 講 者 44人(延べ人数)



小学生の親子を対象とした、ライフパーク倉敷の5センター共同企画の講座である。

当センターでは昨年同様、「はにわ粘土」を使った古代の土笛づくりを行った。作業は、卵形に成形した粘土を半分に切り、それぞれの中身をえぐった後に再びくっつけ、最後に吹き口と指穴をあけるという比較的単純なものだが、低学年にとっては力の入れ具合や粘土をえぐる作業が少し難しいようで、保護者が手助けする姿が多く見られた。



## 6) 古代ガラスの博物誌Ⅴ

講 師 高橋進一・家住利男

日 時 平成12年3月4日(土)・5日(日)

会 場 ライフパーク倉敷「視聴覚ホール・クラフト室」

対 象 一般

受 講 者 68人(延べ人数)

古代ガラスの博物誌として、5回目を迎えた今回は、岡山県内の遺跡からも出土している金層ガラス(サンドイッチガラス)をテーマにし、考古学と工芸技術の両面から、各々の専門家による2回講座を実施した。

岡山県内では、岡山市上道塚段古墳など3例の金層ガラスが出土している。1回目の講義では、県内の3例をはじめ、国内外の出土例をスライドで紹介し、金層ガラスが量産された黒海沿岸地域からの伝播の歴史もあわせて紹介された。また、金層ガラスの製作技法として論じられている巻き付けと管引きの2つの技法を実際にを行い、技法による差異を受講生に見ていただきたい。ガラスが炎の中で形作られていく様子に、受講生からは感嘆の声があがっていた。

第2回では、金層ガラスの技法について学び、受講生には実際に作品制作に挑戦していただいた。制作技法には、接着や溶接が論じられているが、今回は古代ガラスをより身近に感じていただき、また、手軽に金層ガラスの制作を楽しんでいただけるよう、コールド・テクニックによる制作を行った。

簡単に紹介すると、

- ・ガラス板にオイルで絵を描き、金箔を張りつける。
- ・余分な金箔を刷毛で払い落とす。
- ・2枚のガラス板を張り合わせる。

受講生は、20代から高齢者まで様々だったが、思い思いに制作を楽しんでいた。古代の技術は、ただ歴史としてあるだけでなく、現代の私たちが学ぶべき多くのことを示唆している。本講座は、こうした内容を実体験を通して楽しく学ぶ機会としている。



## 7) 発掘調査最前線 !!

講 師 武田恭彰 「三須河原遺跡」  
「横寺遺跡」  
草原孝典 「妹尾住田遺跡」  
藤原好二 「寒田窯跡群4号」  
日 時 平成12年3月19日(日)  
会 場 ライフパーク倉敷「視聴覚ホール」  
対 象 一般  
受 講 者 20人

今年度は初めての試みとして、遺跡の発掘調査概要をスライドを用いて紹介した。遺跡は市内および周辺の市町村で最近発掘調査の行われたものの中から選んだ。

総社市の武田恭彰氏には古代の官衙に関係する二つの遺跡を解説していただいた。特に三須河原遺跡の「郡殿」と墨書きされた須恵器や横寺遺跡の小型家形土器など貴重な遺物を紹介していただいた。

岡山市の草原孝典氏には妹尾住田遺跡について発表していただいた。従来、遺跡の少ないと考えられていた地城から、平安時代中頃の輸入青磁や綠釉陶器が大量に出土し、重要な港湾の存在を浮かび上がらせた。

倉敷市内では秋に調査された寒田窯跡群4号の紹介を行った。改修を繰り返して操業を行った須恵器窯の構造や遺物についての解説を行った。

現地説明会を逃した方なども参加しており、熱心に聴講されていた。

## 2. 発掘調査速報展「寒田窯跡群4号」

会 期 平成12年3月1日(土)~31日(日)  
会 場 埋蔵文化財センター「展示室」  
対 象 一般  
入 場 者 1,345人

平成11年9月~11月にかけて発掘調査を行った寒田窯跡群4号の調査成果をいち早く公開するために、



速報展を実施した。移動ケース2個に出土した須恵器や窯の天井の破片を展示した。須恵器は時期のわかるものや特殊なものを中心に展示した。窯跡の構造図なども利用し、一般の人々の見ることの少ない窯跡についてわかりやすく解説することも心がけた。

また、空から写した窯跡の写真や調査中の写真もパネルとして展示し、調査の様子が身近に感じられるよう配慮した。

### 3. ライフパークの集い

日 時 平成11年8月22日(日)

会 場 埋蔵文化財センター

入 場 者 914人

「ライフパークの集い」は、もっと市民の方にライフパーク倉敷を知ってもらうことを目的に、毎年夏休み期間中に実施しているもので、各センターが趣向を凝らした講座や出し物を企画している。

埋蔵文化財センターでは、昨年好評だった「ドキドキ！発掘体験」を遺物整理室において、また、「親子考古学教室写真展」を展示室においてそれぞれ実施した。

発掘体験は、大きな木箱の中に砂を入れ、そこにミニチュアの土器や埴輪、石器などを埋め、それを竹べらで掘り出してもらおうというものである。そして、埋めてある遺物の種類ごとにミニ表彰状を用意し、子どもたちが土器などを掘りだしてくるたびにそれらの表彰状を手渡した。

子どもたちにとっては、発掘体験というよりは宝探しの感覚であり、熱中する子どもが多く、中には1人で10数枚の表彰状を手にする子どももいた。

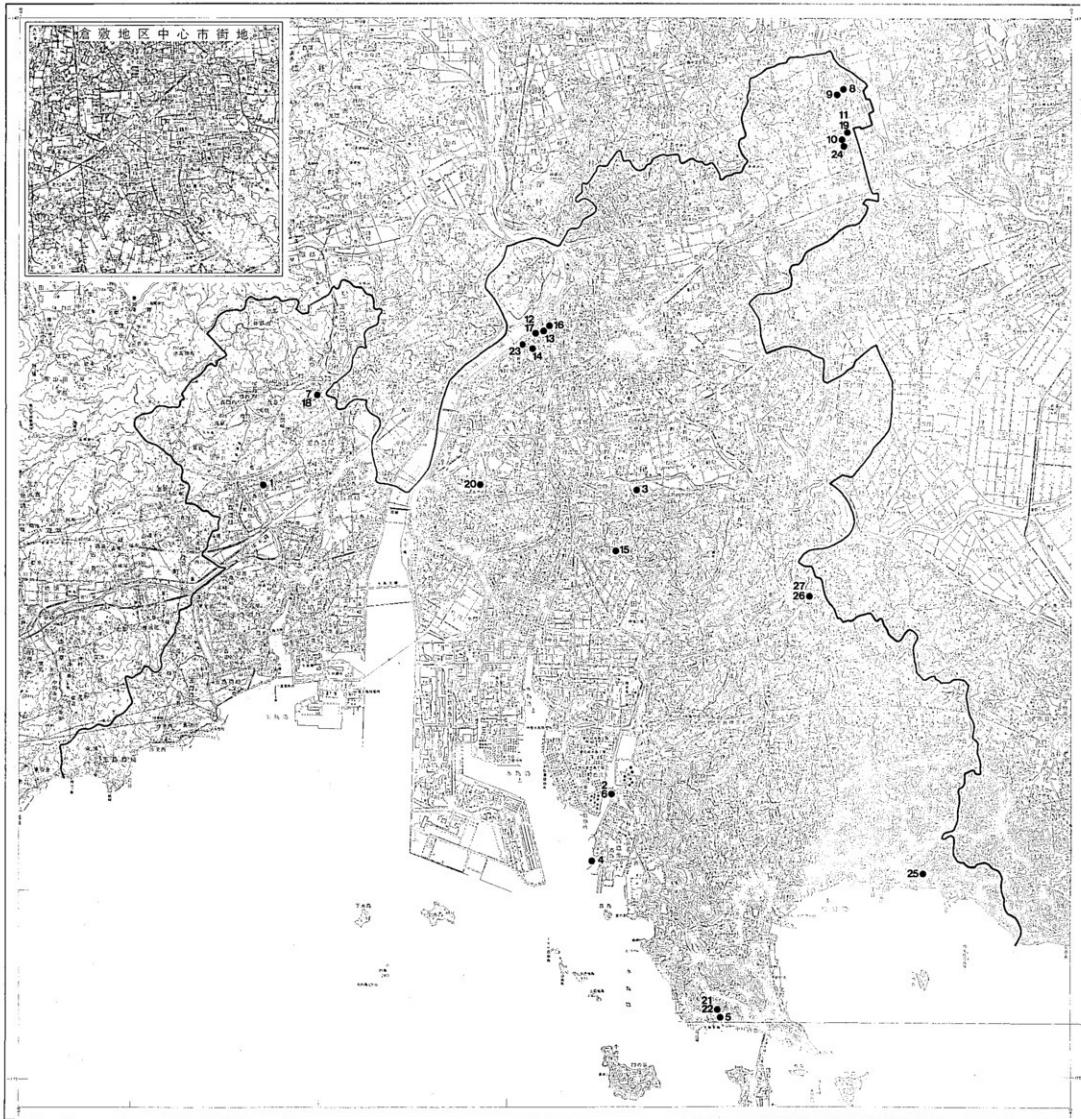
夏休み親子考古学教室写真展は、講座の紹介を兼ね毎年行っているもので、今年も参加者が親子で訪れ、自分たちの写真を見つけては講座の思い出話をする姿が多く見られた。そして、展示の後はそれらの写真パネルを希望者にプレゼントし、とても好評であった。



## IV 調査事業報告

1999年度調査一覧表

No.	遺跡名	調査地	調査原因	区別	調査期間	備考
1	天王山古墳	玉島八島4074-1	道路改良工事	立会	99.4.9	遺物・遺構無し
2	本太城跡	児島塙生3627-1外	車庫建設	立会	5.19	"
3	新吉岡橋南遺跡	黒石1143-1	道路改良工事	立会	6.2	"
4	高島エビス鼻遺跡	児島塙生4381	水道管理設工事	立会	7.14	"
5	堀切伏台場跡	下津井2-641-1	アンテナ設置	立会	7.28	"
6	本太城跡	児島塙生地内	石油ガス備蓄 基地建設	立会	8.19	"
7	寒田窯跡群4号	玉島陶地内	老人ホーム建設	全面	9.1~12.9	窯跡・須恵器・陶棺
8	日煙廃寺	日烟575-1外	農道舗装工事	立会	10.8	遺物・遺構無し
9	赤井西5号墳	庄新町487-73外	道路舗装工事	立会	10.22	"
10	上東遺跡	上東字鍛冶東378-3	宅地造成	確認	10.26	"
11	上東遺跡	上東343-1番地先	農道新設工事	確認	10.28~11.4	弥生土器
12	酒津・水江遺跡	水江柳原町174-1・175	アパート建設工事	確認	11.5	遺物・遺構無し
13	酒津・水江遺跡	水江字柳原130番地外	宅地造成	確認	11.16	"
14	酒津・水江遺跡	水江字西用水西1059-1外	宅地造成	確認	11.17	"
15	福田貝塚	福田町福田2195・2196	ため池改修工事	確認	12.17	縄文土器・須恵器
16	酒津・水江遺跡	水江地内	道路改良工事	立会	00.1.6	遺物・遺構無し
17	酒津・水江遺跡	水江地内	水路改修工事	立会	1.13	"
18	寒田瓦窯跡	玉島陶772-1外	農道建設工事	立会	1.18	"
19	上東遺跡	上東343-1番地先	農道新設工事	全面	1.18~2.17	弥生土器
20	北面丸山貝塚第7群	連島町連島字北面平	道路改良工事	立会	2.3	貝類
21	下津井城跡	下津井1103-1	公園造成	立会	2.8	遺物・遺構無し
22	下津井城跡	下津井1103-1・1103-5	公園整備	立会	2.8	"
23	酒津・水江遺跡	水江字西用水西添1077-1	宅地造成	確認	2.23	"
24	上東遺跡	上東字一本木685-1の一部	宅地造成	確認	3.2	"
25	岩庵山遺跡	児島田の口3494の一部	土砂採取	確認	3.7	土器片
26	新熊野山遺跡	林684	石灯籠設置	立会	3.15	遺物・遺構無し
27	新熊野山遺跡	林字上之山687	駐車場整備	立会	3.22	"



調査地位置図 (S = 1/100,000)

ふくだ  
福田貝塚 確認調査報告

調査地 倉敷市福田町福田 2195・2196

調査原因 ため池改修工事

調査面積 27m<sup>2</sup>

調査期間 991217

調査担当者 小野・中野・片岡

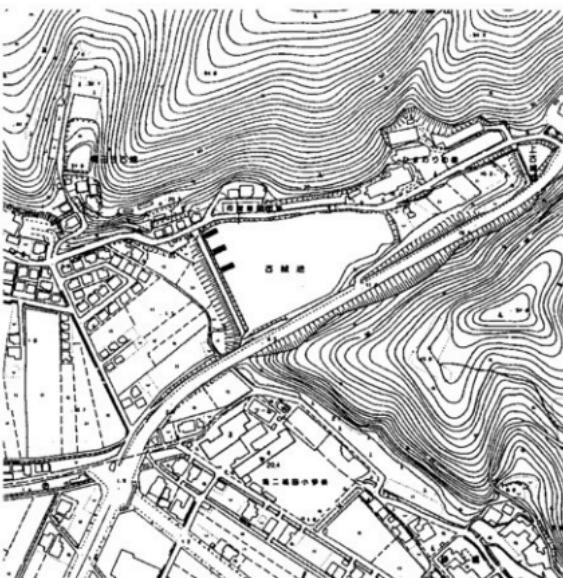
遺跡の概要 福田貝塚は倉敷市街地の南に横たわる種松山山塊の北西端近くに位置し、かつて児島がその名のとおり島であった頃には、当該地は水島灘を臨む海辺であった。遺跡は砂州の上に形成されたものと思われる。小さな谷の開口部にあたる遺跡の一部は、谷をせき止めて造られた古城池の堤の下に埋まっている。遺跡はかつて土取り工事により発見され、昭和25年、26年に堤防外の畠地で発掘調査が行われた。貝層の主体は後期で、縄文時代後期前半の福田K II式の標識遺跡にもなっている。

調査の概要 今回の調査にあたっては、あらかじめ池の水を抜き、ヘドロ状の堆積物を除去した後、工事予定地域内の3ヵ所に1.5m×6mのトレントを設定して掘削を行った。軟弱な地盤のため、掘削可能な深さには限界があった。そのため工事によって影響を受ける予定のレベルまでの状況確認を主に土層観察を行った。

トレント1においては、標高約9.2~7mの土層が観察できた。標高8mで現れる第3層の黒褐色粘質土から、古墳時代の須恵器小片が出土した。第4層の緑灰色シルト層からは、縄文土器の小片が出土している。トレント2では、標高約9.2~7.1mの土層を確認。第1層の灰色土で古墳時代の須恵器小片を採集した。

トレント3では、標高約10~7.5mの土層を確認。第3層の黒褐色粘質土で弥生土器、古墳時代の須恵器の小片を採集した。

今回の工事で影響を受ける範囲では、貝塚本体の貝層、遺構とともに確認されなかった。また、採集された遺物は量も少なく、どれも著しい摩滅が認められた。これらは周辺の高所から流入したものと思われる。  
(中野)



トレント配置図 (S = 1/5,000)

いわたきやま

# 岩滝山遺跡確認調査報告

調査地 児島田の口 3494 番の一部

調査原因 土石採取

調査面積 4 m<sup>2</sup>

調査期間 000307

調査担当者 鍵谷・小野・藤原

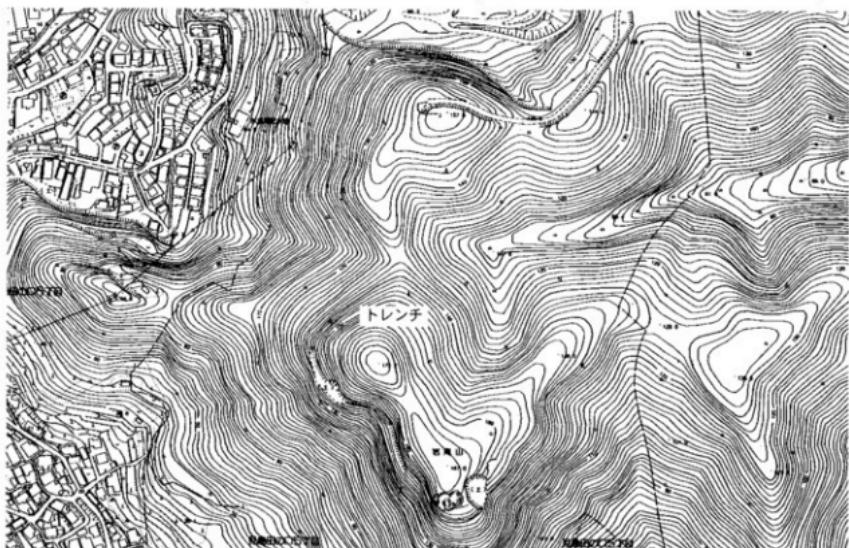
**遺跡の概要** 岩滝山遺跡は、児島市街地東方にある標高約168mの尾根筋に位置する旧石器時代の遺跡である。山頂からは、瀬戸内海をはさんで四国の高松市街や坂出市街が一望できる。また、東方には王子が岳南麓遺跡、南前方には豊島遺跡、西方には鷲羽山遺跡などの旧石器時代遺跡も見渡せる。現状は山林となり、落ち葉が厚く堆積しているため、遺物の表面採集は困難となっている。

**調査の概要** 土石採取は丘陵の北東斜面を中心として行われ、遺跡の所在する山頂付近は一部のみが含まれることになっていた。

調査は、土石採取の範囲と遺跡範囲が重なる、山頂から北側へ一段下がった平坦面に、2m×2mのトレンチ1カ所を設定して行った。その結果、腐食土の下には畑の耕作土と考えられるにぶい黄橙色土が堆積しており、その下はすぐに風化花崗岩の基盤層(地表下約20cm)となっていた。遺物としては、黄橙色土中から土器の細片1点が出土したが、時期のわかるものではなく、その他に遺物・構造物は全く検出されなかった。

こうした状況から、遺跡は畑の造成などにより既に消失したものか、あるいは遺跡の範囲がこの付近にまでは及んでいないものと考えられる。

(鍵谷)



トレンチ配置図(S=1/5,000)

さぶた  
**寒田窯跡群4号発掘調査概要**

調査地 玉島陶804-1

調査原因 特別養護老人ホーム

調査面積 315 m<sup>2</sup>

調査期間 990901～991209

調査担当者 小野・藤原

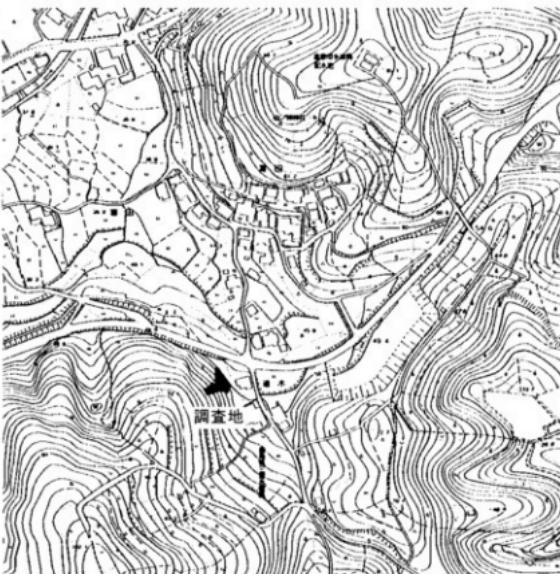
**遺跡の概要** 玉島陶の盆地には、古墳時代後期から奈良・平安時代にかけての窯跡が20基以上確認されており、玉島陶古窯跡群と呼ばれている。寒田窯跡群はこの中でも東方に所在する一群で、現在7基が知られている。須恵器窯4基、瓦窯3基から成り、このうち5号窯跡が、1977年に大規模農道の建設に伴って岡山県教育委員会によって発掘調査され、その一端が明らかになっている。今回調査を行った4号窯跡も、1996年の確認調査によって多くの遺物が出土し、窯本体・灰原とともに良好に遺存していることが判明していた。

**調査の概要** 4号窯跡は船岩山の北西山麓標高55m付近の東向き斜面に位置している。遺跡周辺の地形は近世・近代の水田や畑でかなりの変更を受けている。また、確認調査時の所見から窯の本体は焚口前面部分が良好に残存しており、煙道付近が破壊されていることが予想されていた。しかし、焚口前面と考えられていた部分をさらに深く掘削したところ、地表下約1.5m付近から窯体残部が検出され、窯本体は深い位置で東にのびることが確認された。このため、東側ののり面を精査したところ、窯の断面がこののり面によって切断されていることが確認でき、逆に煙道付近はそれほど削平されていないことが判明した。

窯体は地山の凝灰岩層を掘り抜いた、地下式無段無階の窯構造をとる登窯である。窯体の残存状況は、焚口付近が畑ののり面で削平されている以外は非常に良好で、煙道部も上端が水田の耕作で削平されているのみであった。窯の規模は残存長9.6m、最大幅1.7mである。

煙道の外周には排水のためかと考えられる溝がめぐっている。溝は水田の耕作によって上部が削平されていたが、南側の溝では2回にわたって掘りなした痕跡が確認された。

窯の天井や側壁に張り付けられた粘土は剥離が著しく部分的



調査位置図 (S = 1/5,000)

にしか残っていなかったが、落下した天井の粘土塊の中に、補修のため5層以上に粘土を重ね張りしたものがあり、少なくとも5回以上の操業が行われたことが推定される。

床面は、煙道に近い部分については黄色土による2層が確認できたが、煙道から2.5m付近でこの2層が無くなり、焼成部中央から燃焼部手前にかけては砂質の床面となる。ちょうどこの境の部分に確認調査時のトレーニングがあり、層のつながりを確認できなかった。砂質の部分は補修をくりかえしているものと考えられ、各部によって砂の質が異なっている。燃焼部からは木炭が多量に検出された。

焼成部中央付近の床面形成土には、焼台に転用された甕などが多量に埋め込まれている。この中には、完形の蓋杯1組と杯蓋3点があり、あるいは窯での祭祀に使用されたものである可能性もある。

焚き口付近側壁は南側が3層以上重複し、口を狭めて燃焼効率を向上させる改良が行われていることが推定される。この側壁は内側つまり時期の下るものほど基部が下がっている。これは天井の補修、つまり粘土の重ね張りによって狭くなった内部空間を確保するために床面を掘り下げていった結果と考えられる。煙道付近と燃焼室中央部の床面形成土が異なるのはこのためと考えられる。床面の掘削は煙道付近には及んでいないのである。

灰原は窯跡前面に広がっているが、窯跡との間は烟の造成によって削平されている。窯に近い部分は非常に薄くなっているが、長さ9m以上、幅25m以上に広がっている。先端での厚さは1m弱、上層は烟の開墾でかなり擾乱されているが、下層には良好な状態で遺物が残っていた。また、窯正面の灰原の下には窯構築時の廃土が長さ約5m、幅約8m、厚さ約20cmで堆積していた。他にも土壤1基を検出しているがその性格は不明である。

遺物としては、窯内、灰原とともに多量の須恵器を出土している。窯跡内の須恵器は蓋壺をはじめ、甕・短頸甕などがあるが、壺蓋は径が11~12cm弱のものが多く、七世紀第二四半期にかかる時期のものと考えられる。一方、灰原出土のものは今回調査分についてはまだ整理途中であるが、確



調査風景



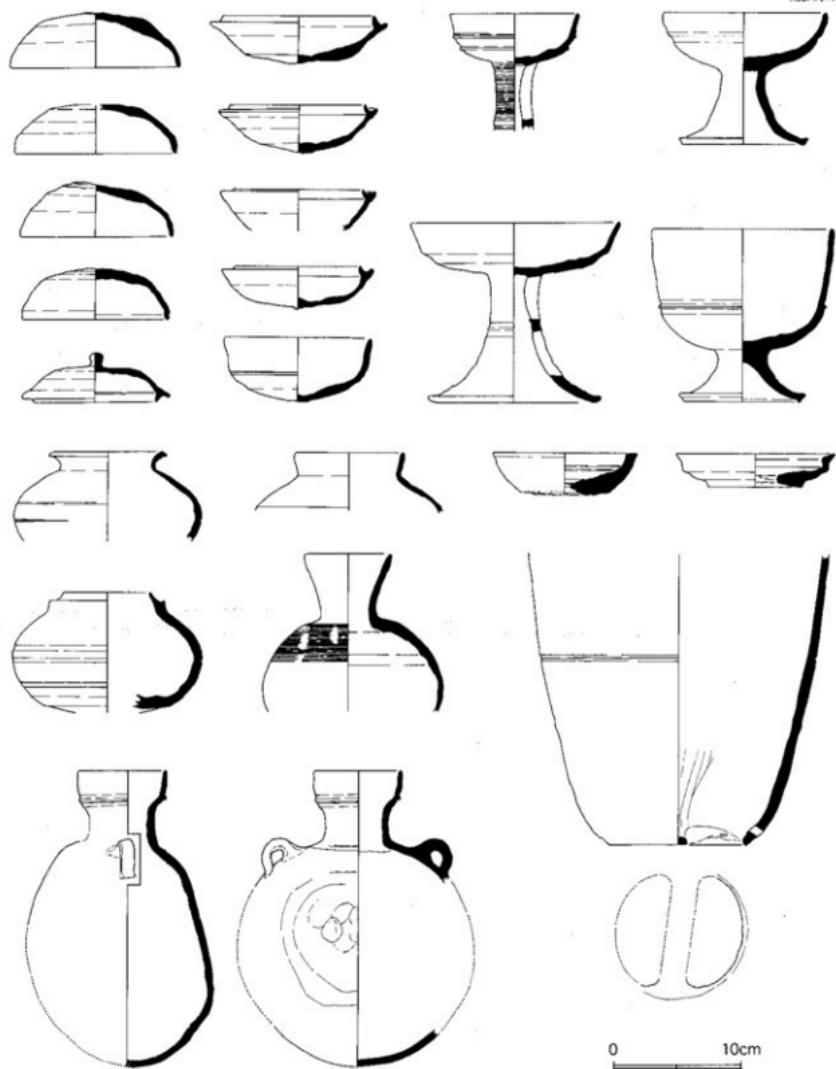
窯跡



調査地全景

認調査時のものに14~16cm前後とやや大きめのものが見られることから、六世紀末頃のものと考えられる。また、灰原からは確認調査では少量しか出土しなかった陶棺片もかなり出土している。

(藤原)



出土須恵器 ( $S = 1/4$ )

# じょうとう 上東遺跡発掘調査概要

調査地 上東鍛冶東343-1番地先

調査原因 農道新設工事

調査面積 221m<sup>2</sup>

調査期間 000118～000217

調査担当者 小野・片岡

**遺跡の概要** 上東遺跡は、足守川の沖積地に立地する、弥生時代後期を中心とした集落遺跡である。これまでに山陽新幹線(1972～1973)、都市計画道路(1975～1976)、主要地方道箕島高松線(1997～1999)等の建設に伴う発掘調査により大規模な集落跡や港湾施設とみられる遺構が確認されており、市内でも豊富な内容をもつ遺跡であると言える。しかしながら、未だその明確な範囲は把握されていないのが現状であり、遺跡の規模が大きいだけに将来の課題として残されているものは多大である。

**調査の概要** 今回の調査地は、先述の主要地方道箕島高松線建設に伴う発掘調査における西鬼川市調査区、東鬼川市調査区の南約150mにあたる。岡山県古代吉備文化財センターにより実施されたこの調査では、東鬼川市調査区において特に遺構密度が高く、西鬼川市調査区では、遺構密度が低下しており、内容も溝と土塁が中心となっている。この2調査区の西隣と東隣の調査区では微高地の西端と東端が捉えられており、今回の調査では、同じ微高地の南側の状況が明らかになると予想された。

調査は、1999年11月に実施した確認調査の結果を受けて、工事予定区域内の2カ所に東西に細長い調査区を設定して行った。このうち西側の調査区を1区、東側の調査区を2区と呼ぶことにする。

1区は幅4.5m、延長38mの調査区で、すぐ南側には用水路が西流している。調査区の中央部分と東端において、微高地の落ち込みを確認し、調査面積の約半分が低湿地で占められる状況となった。微高地上では弥生時代の遺構は検出されていない。微高地の直上には、弥生時代中期から中世までの遺物を含む包含層が堆積しており、当該地においては、後世に大規模な擾乱を受けていると判断される。



調査位置図 (S=1/5,000)

微高地の落ち際付近も、後世の人工的な改変を受けている。1区西側においては浅く溝状に削られ、この末端では、基盤層である黄褐色粘質土が隅丸方形状に連続して掘り取られている。また、東側では基盤層下の灰色シルト層まで達するほど深く掘り込まれているのが断面観察で確認された。これらの時期は近世以降と判断される。

出土遺物は、遺物包含層・落ち込みの堆積土層から少量の弥生時代中期遺物と弥生時代後期土器（壺、甕、高杯、鉢類、器台、製塙土器等）、古墳時代須恵器、中世土師質土器（高台付椀、皿等）や白磁、青磁などがある。なお、落ち込みの堆積土層からは近世遺物も出土している。

2区は幅5.0m、延長10mの調査区である。調査区の南部分において、微高地の落ち込みを確認した。微高地では弥生時代後期のものを含むピット4基と時期不明の溝1基が検出されている。微高地の端においては、基盤層である黄色褐色粘質土が半円形状に掘り取られており、下層の灰オリーブ色粘質土から完形の土師質高台付椀が2点出土している。

遺物の大半は落ち込みの堆積土層からのもので、出土量は多くない。弥生時代後期の遺物には壺、甕、高杯、鉢類、製塙土器などの土器がある。古墳時代後期の遺物には少量の須恵器、平安時代の遺物には、黒色土器（椀）がわずかながらある。中世の遺物には、土師質土器（高台付椀、土鍋等）や白磁、青磁がある。

今回の調査では、西鬼川市調査区、東鬼川市調査区から続く微高地の南端が捉えられた。微高地縁辺は、後世の地形の改変と相まって、低湿地が複雑に入り組んだ状況を呈している。



1区の調査状況



2区の調査状況

確実に弥生時代と思われる遺構は、ピット1基だけであった。微高地の末端部分でもあり、遺構の密度は高くないと想像されるが、後世の擾乱や昭和初期の田畠の地下げによって破壊されたものもあるだろう。海辺の活動を示すものとして、弥生時代後期の製塙土器が若干出土している。

中世に属する可能性がある遺構としては、2区で微高地末端を半円形状に掘り取った跡が検出されている。1区でも微高地末端を掘り取った跡が検出されているが、こちらの時期は近世以降と考えられる。こうした遺構の性格については一様であるとは限らず、今後の課題であるが、候補として、土器・瓦の粘土素材あるいは、土木建築等による使用を目的とした採土跡をあげておく。

また、出土遺物についてみると、在地の土器とともに白磁、青磁が出土していることから、付近にまとまった中世の生活遺構が存在している可能性がある。

(小野)

## V 寄贈図書一覧 (1999.4.1~2000.3.31)

### 【北海道 01】

(財)北海道埋蔵文化財センター

苫小牧市埋蔵文化財調査センター

釧路市埋蔵文化財調査センター

白老町教育委員会

### 【青森県 02】

青森県埋蔵文化財調査センター

### 【岩手県 03】

(財)岩手県文化振興事業団

北上市立埋蔵文化財センター

調査年報11 -平成10年度-、白滻遺跡群を掘るⅡ、白滻遺跡を掘るⅢ、中野B遺跡(IV)、富野3遺跡、ユカンボシE7遺跡、ユカンボシC15遺跡(2)、キウス4遺跡(3)、キウス4遺跡(4)、キウス5遺跡(7)、キウス7遺跡(6)、滝里遺跡群Ⅳ、柏台1遺跡

苫小牧の埋蔵文化財No.12 [縄文時代・中期編]、苫小牧市埋蔵文化財調査センター所報1

幣舞遺跡調査報告書IV

ポンアヨロ4遺跡発掘調査概要報告書、虎枝浜2・ポンアヨロ4遺跡

ネットワーク発掘第4~6号、高岩(1)遺跡・高岩(2)遺跡・白蛇(1)遺跡・鳥河岸遺跡、十三漢遺跡IV

岩手県埋蔵文化財発掘調査略報(平成10年度)

北上市埋蔵文化財年報1991年度~1995年度、北上市極楽寺跡、滝ノ沢遺跡II、滝ノ沢遺跡III、北上遺跡群、蟹沢館遺跡発掘調査概報、金成遺跡(1)、北上遺跡群、横欠遺跡(図版編)、横町遺跡発掘調査概報、金成遺跡(2)、北上遺跡群、蒼前森遺跡、桜山遺跡、北上遺跡群1996年度~1998年度、横欠遺跡(本文編)、成沢II遺跡、曾山遺跡、唐戸崎遺跡、金城遺跡(III)

### 【宮城県 04】

多賀城市埋蔵文化財調査センター

仙台市富沢遺跡保存館

古川市教育委員会

### 【山形県 06】

米沢市教育委員会

多賀城市埋蔵文化財調査センター年報・平成9年度、市川橋遺跡-第11次調査報告書、西沢遺跡-第6次調査報告書、小沢原遺跡・高崎遺跡・市川橋遺跡-第22次・24次調査報告書、高崎遺跡ほか、市川橋遺跡

市民文化財研究員活動報告書3、仙台市富沢遺跡保存館研究報告2、地底の森 第9~11号、地底の森ミュージアム年報-第3号-、動物デザイン考古学-縄文人の作った小さな動物たち-

小寺遺跡、名生館官衙遺跡XV、鴨ノ巣館跡、名生館官衙遺跡XVI、留沼遺跡

米沢市文化財年報 No.12、大椿遺跡第2・3次発掘調査報告書、上谷地D遺跡発掘調査報告書、丸山日陰館跡発掘調査報告書、遺跡詳細分布調査報告書 第12集

### 【福島県 07】

(財)郡山市埋蔵文化財

発掘調査事業団

温故知新、蒲倉場古墳群-第5次調査報告・館下遺跡・宮ノ瀬遺跡-第3次発掘調査報告書、郡山館跡-第2次遺構確認調査報告・、郡山市埋蔵文化財分布調査報告6、荒井墓田遺跡(Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ区)-第7次~第10次発掘調査報告・、荒井墓田遺跡(Ⅲ区)-第11次発掘調査報告・、咲田遺跡-第3次発掘調査報告書・、山中日照田遺跡-第2次調査報告・、山田C遺跡(第3次)発掘調査報告・、清水内遺跡-6・8・9区調査報告-第1冊、清水内遺跡-7区調査報告・、大安場古墳群-第3次発掘調査報告・、大槻向原遺跡・、大槻八頭遺跡発掘調査報告 第1冊

相子島貝塚・小茶円遺跡・中山館跡Ⅱ区・五反田A遺跡・連郷遺跡・白岩塙ノ内館跡・屋敷前遺跡・滝ノ作遺跡・清水遺跡・大場C遺跡

勝口前畑遺跡8、摺上川ダム埋蔵文化財発掘調査報告VI、大平・後閔遺跡2、中谷地B遺跡・台畑遺跡・上ノ平遺跡・上ノ平古墳群・菅原遺跡・高畠遺跡・浜井場遺跡2、台畠遺跡2・山ノ下遺跡3・宮畠遺跡2・下ノ平E遺跡・西ノ前遺跡・岸窓跡・宮代館跡・勝口前畑遺跡9・城裏口遺跡・西B・C遺跡・菅原遺跡・八幡塚古墳・浜井場遺跡3・摺上川ダム埋蔵文化財発掘調査概要VI、平成9年度遺跡詳細分布調査報告(試

(財)いわき市教育文化事業団

(財)福島市振興公社

<p>会津若松市教育委員会</p> <p><b>【茨城県 08】</b></p> <p>(財)茨城県教育財團</p>	<p>掘調査)、山ノ下遺跡4、月崎A遺跡、樺ノ守遺跡、岡ノ内遺跡・東土入遺跡、平成10年度遺跡詳細分布調査報告(試掘調査)、西ノ前遺跡、番匠内遺跡、西原寺跡2、摺上川ダム埋蔵文化財発掘調査概要Ⅶ、上岡遺跡・増田条里制造構・稻荷塚古墳、幕坪湯ノ上遺跡、浜井場遺跡、摺上川ダム埋蔵文化財発掘調査概要V、川派遺跡・鎌田城跡西部遺跡、勝口前畠遺跡4、一本松遺跡・菅原遺跡・高畠遺跡・古屋敷東遺跡・鎌田館跡・宮畠遺跡・勝口前畠遺跡5、西根下堀跡、山ノ下遺跡2、樺ノ守遺跡・丸子条里遺跡・摺上川ダム埋蔵文化財発掘調査報告5、麦地石遺跡2、勝口前畠遺跡?</p> <p>会津総合運動公園発掘調査報告書</p>
<p>(財)ひたちなか市文化・スポーツ振興公社</p> <p>土浦市教育委員会</p>	<p>研究ノート8号、年報18 平成10年度、北浦複合団地造成事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅲ、北浦複合団地造成事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅳ、主要地方道下館つくば線緊急地方道路整備事業地内埋蔵文化財調査報告書、中根・金田台特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅱ、荒川本郷地区特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅲ、笠松運動公園拡張事業地内埋蔵文化財調査報告書、竜ヶ崎ニュータウン内埋蔵文化財調査報告書Ⅱ、中根・金田台特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅲ、葛城一体型特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅲ、国営常陸海浜公園整備に伴う埋蔵文化財調査報告書2、総合流通センター整備事業地内埋蔵文化財調査報告書、やさしさのまち「桜の郷」整備事業に伴う埋蔵文化財調査報告書Ⅰ、主要地方道つくば真岡線緊急地方道路整備事業地内埋蔵文化財調査報告書、国補緊急地方道路整備事業一般県道荒井麻生線道路改良工事地内埋蔵文化財調査報告書1、島田・福田坪一体型特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅳ、一般国道354号道路改築事業地内埋蔵文化財発掘調査報告書、北関東自動車道(友部~水戸)建設工事地内埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅳ、十万原地区市街地開発事業地内埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅰ</p>
<p>土浦市立博物館</p> <p>上高津貝塚ふるさと歴史の広場</p>	<p>フィールドノート vol.11、武田石高遺跡・古墳時代編・船塚Ⅱ 三芳古墳・東谷遺跡(2次)、尻冷南遺跡、神田遺跡、扇ノ台遺跡 古代編、谷原門遺跡C地点発掘調査報告書、東出・完出・中居遺跡、三夜原東遺跡・新堀東遺跡・老堀清水西遺跡・前谷遺跡群・東原親音塚、六十塚遺跡 土浦市立博物館紀要第10号、土浦市立博物館紀要第9号 焼き物にみる中世の世界・上高津貝塚ふるさと歴史の広場年報第5号、上常名台の古代のむら、内海の貝塚・繩文人と海とのかかわり-</p>
<p><b>【栃木県 09】</b></p> <p>(財)栃木県文化振興事業団</p>	<p>研究紀要第7号、埋蔵文化財センター年報第9号(平成11年度)、やまかいどう No.21~No.23、藤岡神社遺跡(遺物編)・山崎北・金沢・台耕上・閑口遺跡、下野国分寺跡XIV・多功南原遺跡・台畑遺跡・谷向遺跡・寺野東遺跡II・伊勢崎II遺跡・清六III遺跡I(繩文・弥生・古墳時代編)・清六III遺跡III(古墳時代編)・清六III遺跡IV(古代・中世編)・東谷・中島地区遺跡群No.1・一本松遺跡・文殊山遺跡・上三王遺跡 栃木県埋蔵文化財保護行政年報21・平成9年度 乙女かわらの里公園</p>
<p>栃木県教育委員会</p> <p>小山市教育委員会</p> <p>宇都宮市教育委員会</p>	<p>宇都宮市文化財年報第13号、飛山城跡第IV次確認調査概報・平成7年度・上野遺跡</p> <p>遺跡に学ぶ 第12号・第13号、旧石器・展示レポート3、研究紀要16・17、年報・18、埋文群馬No.31~No.33、安養寺森西遺跡・大館馬場遺跡・阿久津宮内遺跡、白川傘松遺跡、白倉下原・天引向原遺跡IV、白倉下原・天引向原遺跡V、南蛇井増光寺遺跡VI、下小鳥神戸遺跡、浜川遺跡群、下東西清水上遺跡、綿貫觀音山古墳I、綿貫觀音山古墳I、荒砥上ノ坊遺跡IV、三和工業団地I遺跡(1)、下植木老町</p>

群馬県立歴史博物館	田遺跡、荒砥下押切II遺跡、荒砥中屋敷II遺跡、下芝五反田遺跡、三和工業団地I遺跡(2)、高浜広神遺跡、井野屋敷前遺跡、小八木志貝戸遺跡群1、上滻五反畠遺跡、沼南遺跡、寺尾中城遺跡 観音山古墳と東アジア世界-海を越えた鏡と水瓶の縁-
【埼玉県 11】	
(財)埼玉県埋蔵文化財調査事業団	研究紀要第15号、年報19-平成10年度、外東／神田天神後／大久保条里、末野遺跡II、根際遺跡、妙音寺／妙音寺洞穴、宮地墓地遺跡、城見上／末野III／花園城跡／箱石、大道東遺跡、下向沢／中原、宿北V遺跡、勝棚東遺跡、下ノ台遺跡、岡部条里／戸森前II／葵師堂根II、ハッカ島遺跡、在家遺跡、要害山城跡、私市城武家屋敷跡、御林下遺跡、西富田、四方田条里遺跡、折原石道遺跡、宮ノ後遺跡、白鍬宮腰遺跡、中里前原遺跡、小村田西／小村田／関東、馬場裏遺跡、沖田I／沖田II／沖田III、菖蒲城跡
埼玉県立埋蔵文化財センター	埼玉県立埋蔵文化財センター年報9、埋文さいたま 第32号～第34号
所沢市立埋蔵文化財調査センター	所沢市立埋蔵文化財調査センター年報No.4、市内遺跡調査報告5、和田遺跡第9次調査
川本町出土文化財管理センター	嵐山館跡
飯能市教育委員会	人日向遺跡・八王子遺跡、飯能の遺跡(27)、飯能文化財時報-第119号～第122号-
鶴ヶ島市教育委員会	一天狗遺跡J地点13区、一天狗遺跡X・Y・Z地点発掘調査報告書、一天狗遺跡第3次調査発掘調査報告書、新右衛門遺跡第7次発掘調査報告書、鶴ヶ島の石造物、鶴ヶ島市内遺跡発掘調査報告書II、鶴ヶ島中学西遺跡第3次調査発掘調査報告書、当貫遺跡発掘調査報告書
春日部市教育委員会	浜川戸遺跡21次、小渕山下北遺跡・八木崎遺跡2次、花積内谷耕地遺跡5次
さいたま川の博物館	さいたま川の博物館 観覧
【千葉県 12】	
(財)印旛都市文化財センター	フィールドブックvol.1、財団法人印旛都市文化財センター年報11-平成6年度～年報14-平成9年度、松山2号墳、宮内井戸作遺跡I地区、富里第二工業団地土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査、南園護台遺跡(第2地点)、南羽鳥遺跡群III、西村邸屋敷跡遺跡、川栗遺跡群I
(財)山武都市文化財センター	財団法人山武都市文化財センター年報No.15、文化財かわら版第11号、山田新田II遺跡、大台西藤ヶ作遺跡、庚申遺跡(1076地点)、松尾城跡II、鷺山入遺跡、上滻ノ下遺跡、宮郷台遺跡(地蔵873-1地点)、古宿遺跡、松尾藩公序跡、中台大木戸遺跡、田越台遺跡
(財)市原市文化財センター	私たちの文化財23、菊間手水遺跡、市原市大庭浅間様古墳、市原市五雲台遺跡、市原市西国吉遺跡、市原市大庭辰巳ヶ原遺跡、八幡御所跡推定地、市原市村上川遺跡、市原市草刈遺跡II、史跡上総国分寺跡、绳文時代の生活
(財)香取都市文化財センター	加止里第5号、事業報告書-平成9年度-、伊地山遺跡、後田遺跡、栗山川流域遺跡群、島ノ間遺跡、杉内遺跡、浅間1号墳・植房宮作遺跡、古屋敷遺跡
(財)東総文化財センター	東総文化財センター年報4、堀川館跡
(財)千葉県文化財センター	房総の文化財vol.18～vol.20
(財)総南文化財センター	郷土の文化財19、米満横穴墓群、東金台遺跡II、加賀名遺跡、黒戌ヶ原遺跡・中ノ台遺跡
市川市教育委員会	平成10年度 市川市内遺跡発掘調査報告
船橋市教育委員会	飛ノ台貝塚第4次発掘調査報告書、峰台遺跡、本郷台遺跡-第7次発掘調査報告書-平成9年度野田市内遺跡発掘調査報告、平成10年度野田市内遺跡発掘調査報告
野田市教育委員会	上総国府推定地歴史地理学の調査報告書、平成10年度市原市内発掘調査報告、紙園原貝塚
市原市教育委員会	平成10年度芝山町内遺跡発掘調査報告書
芝山町教育委員会	国立歴史民俗博物館研究年報6・7、国立歴史民俗博物館研究報告 第77集～第82

	<p>集、近世窯業遺跡データベース・近世窯業関係主要文献目録データベース、城館 城下発掘データベース、日本民俗学文献目録データベース</p> <p>貝塚博物館紀要第26号・第27号、長崎県の貝塚と遺跡、貝層の研究Ⅰ</p> <p>市立市川考古博物館研究紀要第1号・第2号、市立市川考古博物館年報第24号～ 第26号、向台貝塚資料図譜</p> <p>武射No.16・No.17</p> <p>東邦考古23</p> <p>山武考古学研究所年報No.17、山部考古学研究所出版物目録</p>
<b>【東京都 13】</b>	
(財) 東京都教育文化財団	
(財) 東京都生涯学習文化財団	<p>東京都埋蔵文化財センター研究論集XVII、尾張藩上屋敷跡遺跡発掘調査概要VII、 尾張藩上屋敷跡遺跡発掘調査報告書IV、汐留遺跡・多摩ニュータウン遺跡 -No.72・795・796遺跡-(2)、多摩ニュータウン遺跡-No.327・329・330遺跡、 多摩ニュータウン遺跡-No.107遺跡-古代編、多摩ニュータウン遺跡-No.107遺跡- 中世・近世以降編、多摩ニュータウン遺跡、多摩ニュータウン遺跡-No.125遺跡、 多摩ニュータウン遺跡-No.113・115遺跡、多摩ニュータウン遺跡-No.450・ 451・452遺跡、多摩ニュータウン遺跡先行調査報告12、多摩ニュータウン遺跡 先行調査報告13、多摩ニュータウン遺跡先行調査報告14第1分冊～第4分冊 たまのよこやまNo.46～No.48、むかし人の風景-多摩丘陵の歴史-、東京都埋蔵 文化財センター年報19、多摩ニュータウン遺跡-No.72・795・796遺跡-(8)、 多摩ニュータウン遺跡-No.72・795・796遺跡-(9)、多摩ニュータウン遺跡 -No.446遺跡、多摩ニュータウン遺跡-No.753遺跡、多摩ニュータウン遺跡 -No.46遺跡、日野市米町遺跡、武藏台遺跡 書簡部記要第50号</p> <p>十条久保遺跡</p> <p>三吉野遺跡群井戸端地区・阿岐野遺跡発掘調査報告書</p> <p>郷土博物館だよりNo.55～No.57、調布の文化財第25号～第27号</p> <p>雁木坂上遺跡発掘調査報告書、研究紀要5-平成10年度-、資料館だより第39号</p> <p>姥久保遺跡II</p> <p>明治大学博物館研究報告第4号、明治大学博物館図書目録第1号</p> <p>人類誌情報1999</p> <p>青山史学第十七号</p> <p>古代106号</p>
<b>【神奈川県 14】</b>	
横須賀市教育委員会	
平塚市教育委員会	
藤沢市教育委員会	
平塚市真田・北金目遺跡調査会	
<b>【富山県 16】</b>	
(財) 富山県文化振興財團	
富山県埋蔵文化財センター	<p>埋蔵文化財発掘調査概報集 VII、吉井城山、長浜ノ上遺跡</p> <p>平塚の文化財、高林寺遺跡他</p> <p>神奈川県埋蔵文化財包蔵地図 藤沢市域版</p> <p>平塚市真田・北金目遺跡群発掘調査報告書1</p> <p>大規模発掘十年の出土品展、勅使塚古墳発掘調査レポート、発掘調査十年のあ ゆみ、富山考古学研究第2号、埋蔵文化財調査概要-平成10年度-、埋蔵文化財年報 (10)-平成10年度-、能越自動車道関係埋蔵文化財包蔵地調査報告-NEJ-10・NEJ- 11-</p> <p>花ひらぐ繩文文化、小杉流通業務團地内遺跡群第14次発掘調査概要No.15A遺 跡、任海宮田遺跡発掘調査報告書、任海宮田遺跡発掘調査報告書II・III、富山県埋 蔵文化財センター年報-20年の歩み、富山県埋蔵文化財センター年報-平成7年 度-、平成9年度、埋文とやま第65号～第70号</p> <p>魚津の発掘速報、魚津市立博物館紀要第5号</p> <p>下村加茂遺跡発掘調査報告</p> <p>蛇喰正観寺遺跡</p>

## 【石川県 17】

金沢市埋蔵文化財センター

金沢大学資料館

## 【福井県 18】

福井県埋蔵文化財調査センター

## 【山梨県 19】

山梨県埋蔵文化財センター

山梨県立考古博物館

## 【長野県 20】

長野市埋蔵文化財センター

上田市教育委員会

辰野町教育委員会

長野県立歴史館

## 【岐阜県 21】

(財)岐阜県文化財保護センター

各務原市埋蔵文化財調査センター

(財)岐阜市教育文化振興事業団

岐阜市教育委員会

美濃市教育委員会

## 【静岡県 22】

(財)静岡県埋蔵文化財調査研究所

上荒屋遺跡Ⅲ、戸水ホコダ遺跡、堅田B遺跡発掘調査概報、扇台遺跡・金石本町遺跡・矢木ジワリ遺跡・夕日寺遺跡、下本多町遺跡、磯部カンドア遺跡、八日市ヤスマル遺跡、平成10年度 金沢市埋蔵文化財調査年報

金沢大学資料館だより No.13~No.15、金沢大学資料館紀要 No.1

年報11~平成7年度、年報12~平成8年度、尾永見遺跡Ⅱ、下黒谷遺跡、今市遺跡(豆田地区)、下糸生駒遺跡

めざせ!きみも考古学者、遺跡調査発表会を旨、研究紀要15、年報15~平成10年度、埋文やまなし創刊号~第5号、菖蒲池遺跡、大明神遺跡、上野原遺跡、塩部遺跡、石和高校周辺遺跡、西田遺跡、大月遺跡、甲府城跡VI~VII、一ノ坪遺跡発掘調査報告書、古婦毛遺跡、甲ヶ原遺跡IV、諫訪前遺跡報告書、伊保水遺跡、矢坪遺跡、談合坂遺跡、山梨県堤防・河岸遺跡分布調査報告書、東原遺跡、大月市御所遺跡、村前東A遺跡、十五所遺跡、原平遺跡、塩漬下原遺跡発掘調査概報、米倉山B遺跡、横森・横森前遺跡、古堰遺跡、大林上遺跡・宮の前・海道前C遺跡・大林遺跡、日向町遺跡発掘調査報告書、横森赤台(東下)遺跡、上の平遺跡第7次発掘調査報告書、平林2号墳、町屋口遺跡、長田口遺跡  
チャレンジ考古学 学んで、作って、多くを知ろう、山梨県立考古博物館だより No.46~No.47

長野市埋蔵文化財センター所報No.9、栗田城跡(2)、松原遺跡IV、栗田城跡(3)、高野遺跡

上田藩主屋敷跡、市内遺跡、史跡上田城跡~平成3年度発掘調査概報~、市内遺跡II~VI、史跡上田城跡~平成4年度発掘調査概報~、丘の鼻遺跡、宮の前遺跡、八幡裏遺跡I、上田原遺跡、藤之木遺跡、大畠遺跡、史跡上田城跡、八幡裏遺跡II、下町田遺跡、古城遺跡、金井裏遺跡II、八幡裏遺跡III、金鉢遺跡、西之手遺跡II、宮原遺跡、平成9年度市内遺跡、上沖(大沢)遺跡、西之手遺跡遺跡、八幡裏遺跡IV、浦田B遺跡、篠籠田(築地)遺跡、八幡裏遺跡V、銀杏木・宮原遺跡、高田遺跡III、平成10年度市内遺跡

経塚遺跡

長野県立歴史館たよりvol.18 春号~vol.21 冬号

きずな第25号~第27号、西ヶ洞遺跡、西ヶ洞古墳群、上開田平遺跡、荒尾南遺跡、上原遺跡I、牧野小山遺跡C地点、牛垣内遺跡、丸山遺跡、諸洞遺跡、大坪遺跡、木やノ木古墳、土岐口西古窑跡、細野遺跡、梨子谷遺跡、千日遺跡、宮上遺跡、上原遺跡II、南整理遺跡、頬戸南遺跡、櫻ノ木洞遺跡、冬頭城跡、冬頭山崎1号古墳、冬頭山崎2号古墳、冬頭山崎1号横穴

かかみがはらの埋文第6号、前渡猿尾堤第3調査区発掘調査報告書、三ツ塚遺跡A地区発掘調査報告書、蘇原東山遺跡群発掘調査報告書、須衛市立南1号窯址発掘調査報告書、蘇原中屋敷1号窯址発掘調査報告書、須衛宮東1号窯址発掘調査報告書

城之内遺跡

平成9~10年度岐阜市市内遺跡発掘調査報告書、城之内遺跡(第1分冊)

中屋敷遺跡

研究所報 No.79~No.83、出土品図録1999、静岡県埋蔵文化財調査研究所年報 XV、平成11年度「静岡の原像をさぐる」発掘調査報告会、押出シ遺跡(遺構編)、瀬

<p>磐田市埋蔵文化財センター 袋井市教育委員会 静岡市立登呂博物館</p>	<p>名川遺跡、方吹遺跡、北ノ入A遺跡、川合遺跡 八反田地区 I、池ヶ谷遺跡-構構編、箕輪遺跡、池ヶ谷遺跡Ⅲ(遺物編)、上土遺跡(立石地区) I -構構編-, 上土遺跡(立石地区) II -遺物編-, 山の神遺跡</p>
<p>【愛知県 23】 (財) 愛知県埋蔵文化財センター (財) 濑戸市埋蔵文化財センター</p>	<p>国分寺・府台遺跡 -第126次発掘調査報告書・新貝・鎌田古墳群発掘調査報告書 赤池ヶ谷1号墳発掘調査報告書・堂山2号墳・堂山古墳発掘調査報告書</p>
<p>南山大学人類学博物館 名古屋市見晴台考古資料館</p>	<p>石ノ形古墳 静岡市立登呂博物館報9 -平成10年度、登呂の弥生人7 -体験して学ぶ古代農村の暮らし-</p>
<p>豊田市教育委員会 名古屋大学文学部考古学研究室</p>	<p>まいぶん愛知No.56~No.59 (財) 濑戸市埋蔵文化財センター研究紀要第7輯、出土品展-発掘が語る瀬戸3万年の歴史、平成10年度 濑戸市埋蔵文化財センター年報、列島に広がる大窯製品、上品野蟹川遺跡Ⅱ</p>
<p>【三重県 24】 三重県埋蔵文化財センター 津市埋蔵文化財センター</p>	<p>向油田貝塚の土器 よみがえる環濠集落-弥生時代後期の名古屋、旧紫川遺跡 第7次発掘調査概要報告書、見晴台遺跡34・36・37・38次発掘調査の記録、見晴台教室'98、高藏遺跡第19次発掘調査報告書、高藏遺跡第20次発掘調査報告書、正木町遺跡 第10次発掘調査報告書、千音寺遺跡発掘調査概要報告書、堅三歳通遺跡・第14次調査の概要、朝日遺跡第3・4次発掘調査報告書、津賀田古墳発掘調査概要報告書、東二葉町遺跡第2次発掘調査報告書、東邦ガス工事に伴う埋蔵文化財調査報告書、平田城跡第2次発掘調査報告書、名古屋城三の丸遺跡第10次発掘調査概要報告書、埋蔵文化財発掘調査報告書30・32、名古屋市見晴台考古資料館 年報16、名古屋市見晴台考古資料館研究紀要第1号</p>
<p>鈴鹿市考古博物館</p>	<p>豊田市郷土資料館だよりNo.27~No.30、南山畠遺跡、梅坪遺跡VI、中川原遺跡、花木遺跡、千石遺跡、梅坪遺跡V 考古資料ソフトエクス写真集第14集、名古屋大学文学部研究論集134</p>
<p>【滋賀県 25】 滋賀県埋蔵文化財センター (財) 滋賀県文化財保護協会</p>	<p>みえNo.27・No.28 津市埋蔵文化財センター年報3 -平成9年度、埋文センターニュース第8号~第10号、宮ノ前遺跡発掘調査報告 鈴鹿市埋蔵文化財調査年報IV・V 上野市埋蔵文化財年報5 海・港・交流 -片部貝塚遺跡の土器交流、清水谷遺跡発掘調査報告 城之越遺跡(2次)発掘調査報告、堂垣内・大多田遺跡発掘調査報告、上野城下町遺跡発掘調査報告、三反田遺跡発掘調査報告 発掘された鈴鹿'97~'98</p>
<p>能登川町埋蔵文化財センター 滋賀県教育委員会</p>	<p>滋賀埋文ニュース No.229号~No.239、カミの籠る容器 滋賀文化財だより No.254~No.261、近江聖人中江藤樹、近江の漁物、国宝・園城寺光津院客殿、銅鐸祭祀からみた弥生社会、東海道の宿場町 土山、余呉湖 栗東町埋蔵文化財発掘調査 1997年度年報、栗東町埋蔵文化財発掘調査資料集 1980~1982年度</p>
<p>能登川町埋蔵文化財調査報告書第46集・第48集、法堂寺廐寺跡 平成9年度滋賀県埋蔵文化財調査年報、芦浦遺跡、福里遺跡、烏丸崎遺跡発掘調査報告書、下之郷遺跡、吉見西遺跡、金屋遺跡、穴太遺跡発掘調査報告書Ⅲ、後川遺跡Ⅰ、弘部野薦池遺跡、三堂遺跡、杉江遺跡、大宮遺跡Ⅲ、段ノ東遺跡、竹ノ鼻遺跡、辻野遺跡、鶴ヶ島遺跡、八之塚古墳群、木瓜原遺跡、木曾遺跡Ⅲ、真福寺遺跡、上寺地遺跡、北郷里小遺跡、上出A遺跡、老蘇遺跡、川合寺遺跡、上日吉古墳群、茂前遺跡ほか、上出A遺跡、御所内遺跡、上出A遺跡、内野遺跡、上田上牧遺跡Ⅲ、蛭子田</p>	

	<p>遺跡、大塚古墳群ほか遺跡、後川遺跡、高木遺跡、八甲遺跡、野田代遺跡・森西城遺跡・野田道遺跡、堀部遺跡・堀部西・丸岡塚遺跡・南小足遺跡・北郷里小塚跡・岩町塚遺跡、尼子南遺跡1、金剛寺遺跡・金剛寺城遺跡、建部北町古墳群・淨土寺遺跡、小川原遺跡3、御所内遺跡・上出B遺跡、慈恩寺遺跡ほか、野田道遺跡・木曾遺跡II・十津師遺跡・越前塚遺跡・大塚遺跡・淨土寺遺跡・野田代遺跡・風呂流遺跡・堀南遺跡・神ノ木遺跡・普光寺廃寺遺跡発掘調査報告書・芝原遺跡・北落遺跡・北代遺跡・上代遺跡・宮前遺跡発掘調査報告書・標遺跡・大将軍遺跡発掘調査報告書・人塚遺跡・寺林遺跡・大亥亥遺跡I・鴨田遺跡III-2・鴨田遺跡VI・室遺跡II・宮司遺跡III・上出A遺跡(蛇砂川河床)・善光寺廃寺・屋中寺廃寺・栗津湖底遺跡(栗津湖底遺跡II)</p>
<p>長浜市教育委員会 日野町教育委員会 滋賀県立安上城考古博物館 滋賀県立琵琶湖博物館 滋賀県立大学考古学研究室 坂田郡社会教育研究会文化財部会</p>	<p>川崎南遺跡・野瀬遺跡発掘調査報告書・大辰巳遺跡2 日野町埋蔵文化財発掘調査報告書第13集 おおてみち第27号～第30号 うみんど第10号～第13号・潮の船・木造船にみる知恵と工夫・ 人間文化第5～7号 佐加太第10号</p>
<p><b>【滋賀県 26】</b> (財)京都府埋蔵文化財 調査研究センター (財)京都市埋蔵文化財研究所 京都市埋蔵文化財調査センター 加悦町教育委員会 園部町教育委員会 京都市考古資料館 立命館大学文学部考古学コース 京都橘女子大学 (株)京都科学</p>	<p>京都府埋蔵文化財情報第71号～74号  研究紀要第5号・平成9年度 京都市埋蔵文化財調査概要 京都市内遺跡試掘調査概報・平成10年度・京都市内遺跡発掘調査概報・平成10年度・京都市内遺跡立会調査概報・平成10年度・ 丹後の弥生社会を解する・白米山古墳III・須代遺跡IV・金屋遺跡 園部天神山古墳群発掘調査報告書・園部町内遺跡発掘調査概報・平成7年度～平成10年度・片山遺跡 統・洛中桃山陶器の世界・リーフレット京都No.115～No.130 仰木遺跡発掘調査概報I(遺構編) TachibanaBeing第15号・文化財学科ニュース・レターNo.2・No.3 ミュージアムワークスvol.5・vol.6</p>
<p><b>【大阪府 27】</b> (財)東大阪市文化財協会  (財)八尾市文化財調査研究会 (財)枚方市文化財研究調査会 高槻市立埋蔵文化財調査センター 堺市立埋蔵文化財センター  (財)大阪府文化財調査研究センター</p>	<p>岩滝山遺跡第4次発掘調査報告書・鬼虎川遺跡第35-2・3次発掘調査報告・客坊山遺跡群第2次発掘調査報告・宮ノ下遺跡第10次発掘調査報告書・若江遺跡第70次・第75次発掘調査報告・出雲井遺跡第1次発掘調査報告書・上小阪遺跡第3次発掘調査報告書・水走・鬼虎川遺跡発掘調査報告・東大阪市文化財協会概報集・1997年度・ 平成10年度(財)八尾市文化財調査研究会事業報告・財團法人八尾市文化財調査研究会報告62-63 ひらかた文化財だより第38号～第41号・枚方市文化財年報20(1998年度分) 高槻市文化財年報 平成8年度・邪馬台国と安満宮山古墳・島上遺跡群23 堺市文化財調査概要報告第77号～第83号・堺埋蔵文化財だより第12号・長曾根遺跡を掘る2・3・平成10年度国庫補助事業発掘調査報告書 研究調査報告第2集・大阪府文化財調査研究センター年報・平成10年度・大阪府埋蔵文化財研究会(第39回)資料大阪文化財研究第15号・第16号・大文研通信No.12・No.13・池島・福万寺遺跡発掘調査概要X-XIII・池島・福万寺遺跡発掘調査概要X-XIV・箕面北部丘陵地区埋蔵文化財発掘調査報告書・陶邑・伏尾遺跡III-A地区・久宝寺遺跡・竜華地区発掘調査報告書II・玉櫛遺跡・東奈良遺跡・小畠遺跡・中之社遺跡他発掘調査報告書・田須谷古墳群・尺度遺跡I・慈大寺遺跡 文化財ニュース豊中No.25・No.26・豊中市埋蔵文化財年報vol.5・1995年度・豊中市埋蔵文化財年報vol.6・1996・1997年度・豊中市埋蔵文化財発掘調査概要</p>
<p>豊中市教育委員会</p>	

枚方市教育委員会 羽曳野市教育委員会	-平成10(1998)年度、津の国てしま・ながめてみよう 奈良・平安時代のとよなか 枚方市埋蔵文化財発掘調査概要1998 阿弥陀寺跡、榮町、株山遺跡発掘調査報告書、高鷲中之島遺跡調査報告書、史跡峯ヶ塚古墳後円部墳丘調査概報、史跡峯ヶ塚古墳予備調査報告、翠島園遺跡発掘調査報告書Ⅰ、翠島園遺跡発掘調査報告書Ⅱ、文化財保護のびき、平成8年度市営車地住宅埋蔵文化財発掘調査報告書、野々上Ⅱ・平成6年度調査報告書、野々上Ⅱ・野中寺古瓦譜、野々上Ⅲ・平成7年度調査報告書、野々上Ⅳ・八王子塚の調査、野々上Ⅴ・平成9年度調査報告書、野々上VI、菅田白鳥遺跡発掘調査報告書、羽曳野市内遺跡調査報告書・平成2年度、史跡峯ヶ塚古墳平成2年度発掘調査概報、羽曳野市内遺跡調査報告書・平成3年度、羽曳野市内遺跡調査報告書・平成7年度、古市遺跡群XX
富田林市教育委員会 泉佐野市教育委員会	富田林市内遺跡群発掘調査報告書・平成10年度 茅渟の道第7号、泉佐野市埋蔵文化財発掘調査概要・平成10年度、泉佐野市埋蔵文化財発掘調査概要第35号～第37号、上町東遺跡・98-1区の調査、上町東遺跡・97-3区の調査、上町遺跡・98-1区の調査
吹田市教育委員会	高城B遺跡、七尾瓦窯跡(工房跡)、平成10年度埋蔵文化財緊急発掘調査概報、目遣跡
大阪府立近つ飛鳥博物館	大阪府立近づ飛鳥博物館報4、博物館だより・アスカディア・古墳の森 vol.10・vol.11、百舌鳥・古市 門前古墳航空写真コレクション、修羅! -その大いなる遺産 古墳飛鳥を運ぶ
大阪市立博物館 吹田市立博物館	大阪市立博物館報No.38 江戸時代の吹田・古文書と絵図が語るもの、吹田市文化財ニュース No.20、博物館だよりNo.12・No.13、北摂古寺巡礼・信仰の語り部たちとの出会い・パノラマ地図を旅する
堺市博物館 八尾市立歴史民俗資料館 大阪大学考古学研究室	研究紀要第10号 古墳時代首長系譜変動パターンの比較研究、国家形成期の考古学
<b>【兵庫県 28】</b>	
兵庫県教育庁埋蔵文化財調査事務所	ひょうごの遺跡第32号～第34号、平成10年度 年報、宮脇遺跡発掘調査報告、本州四国連絡道路建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書I・IV、美乃利遺跡、南本町遺跡、塩瀬3号墳、高畑町遺跡(II)、清水遺跡、北摂ニュータウン内遺跡調査報告書IV、高畑町遺跡(I)、安倉南遺跡、屋敷町遺跡
神戸市埋蔵文化財センター	むかしのアクセサリー、地下に眠る神戸の歴史展 XI、縄文人と弥生人 -その時代を生きた人々の表情-
妙見山麓遺跡調査会 神戸市教育委員会	神奈遺跡、大伏古窯分布調査報告書、播磨產銅史の研究 -分析資料編-
姫路市教育委員会	白水遺跡第4次、平成8年度 神戸市埋蔵文化財年報、北青木遺跡発掘調査報告 -第3次調査-
三田市教育委員会	播磨極楽寺瓦經、姫路市埋蔵文化財調査略報 -平成6年度、姫路市埋蔵文化財調査略報 -平成9年度-
赤穂市教育委員会 龍野市教育委員会 尼崎市教育委員会	三田文化財情報 平成10年度合冊号、三田焼の研究 -三輪明神窯跡出土土器1-、三輪・宮ノ越遺跡、上井沢土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財調査の記録周世・入相遺跡発掘調査報告書IV、高雄・根本遺跡発掘調査報告書
加東都教育委員会 中町教育委員会 新宮町教育委員会 福崎町教育委員会	長尾・小畑遺跡群、竹原遺跡 平成6年度 尼崎市埋蔵文化財調査年報、尼崎市内遺跡復旧・復興事業に伴う発掘調査概要報告書、猪名庄遺跡 埋蔵文化財調査年報・1998年度、東古瀬・坊ノ下遺跡・東古瀬・坊ノ上遺跡 円満寺東の谷遺跡、靴屋・里の垣内遺跡、東山古墳群 I 郷土資料 三木家住宅総合調査報告書、福崎町文化財だより 21～23、南田原桶川遺跡、妙徳

香住町教育委員会 御津町 兵庫県立歴史博物館 赤穂市立歴史博物館 播磨町郷土資料館	山神積寺遺跡 岡畠遺跡 御津町史 第三巻・第四巻 兵庫歴博ニュース No.66～No.69 赤穂城絵画展、浅野内匠頭牢人御預記 館報 vol.10 平成10年度・大中遺跡の時代・まつりの道具からみた弥生時代の 社会、播磨町の文化財、播磨大中遺跡 朝鮮半島の考古遺物 -新羅土器の世界- 大開遺跡発掘調査報告書、淡河萩原遺跡第Ⅲ・Ⅳ・V次発掘調査報告書、淡河萩原 遺跡第VI・VII・VIII次、淡河中山遺跡第II次発掘調査報告書
<b>【奈良県 29】</b> 奈良国立文化財研究所 桜井市立埋蔵文化財センター	埋蔵文化財ニュース No.87～No.91、山内清男考古資料10 高家一橋古墳発掘調査報告書、桜井市内埋蔵文化財1994年度 発掘調査報告書1、桜井市内埋蔵文化財1995年度発掘調査報告書1、桜井市内埋 蔵文化財1996年度発掘調査報告書2、上流の村・下流の村、平成9年度国庫補助による 発掘調査報告書、平成10年度国庫補助による発掘調査報告書 田原本町埋蔵文化財調査年報7・年報8 「蓮華百相」-瓦からみた初期寺院の成立と展開- 古事 第3冊 天理参考館報 第12号
田原本町教育委員会 奈良県立橿原考古学研究所附属博物館 天理大学文学部考古学研究室 天理大学附属天理参考館	祈りの考古学、紀州北部の町並み、発掘物語'99、太田・黒田遺跡 第43次発掘調査 概報、山口遺跡 第6次発掘調査概報 謎の古代豪族紀氏
<b>【和歌山県 30】</b> (財)和歌山市文化体育振興事業団 (財)和歌山県文化財センター	年報-1998-、古市遺跡群 I・上首荒神原遺跡、長瀬高浜遺跡Ⅶ・園第6遺跡 古市遺跡 II・史跡鳥取城跡附太閤ヶ平中ノ御門発掘調査報告書、平成10年度 鳥 取市内遺跡発掘調査概要報告書、防己尾城跡・岩本第2遺跡 壹原・奥陰田II・目久美遺跡V・VI・長砂第3・4遺跡、米子城跡22遺跡、長砂第3遺 跡、米子城跡第25次調査、目久美遺跡VII・諏訪西山ノ後遺跡 史跡大原庵寺発掘調査報告書、奥小山8号墳発掘調査報告書、倉吉市内遺跡分布 調査報告書 X・上神宮ノ前遺跡発掘調査報告書、駄道東遺跡発掘調査報告書 新山山田古墳群・新山トギ石山遺跡・新山山田遺跡・新土堤調査報告、長砂遺跡試 掘調査報告、鳥取県米子市観音寺古墳群ほか発掘調査報告書、米子市内遺跡発掘 調査報告書(遺跡分布調査)1998・目久美遺跡
<b>【鳥取県 31】</b> (財)鳥取県教育文化財団 (財)鳥取市教育福祉振興会 (財)米子市教育文化事業団 倉吉市教育委員会 米子市教育委員会	かんごの流れ 第5号、ドキ土器まいぶん No.5～No.8、江津を掘る、穴道・女夫岩 遺跡、斐伊川放水路発掘物語 PART5、平成10年度隱岐空港発掘だより、埋蔵文 化財調査センターワークshop 平成10年度・姫原西遺跡・藏小路西遺跡・渡橋沖遺跡、 小久白墳墓群、中原遺跡、西川津遺跡VI・三田谷I遺跡、古志本郷遺跡I・上塙治 横穴墓群第28支群 本庄地区県営圃場整備事業に伴う松江北東部遺跡発掘調査報告書 石見銀山遺跡発掘調査報告1、県道米子伯太線改良工事に伴う試掘調査報告書 高畠遺跡詳細分布調査報告書、小久白遺跡詳細分布調査報告書、清水大日堂裏古 墓発掘調査報告書、小馬木古墳群、荒島古墳群発掘調査報告書、清瀬地区発掘調 査報告書 古志本郷遺跡発掘調査報告書、高浜II遺跡・出雲市埋蔵文化財発掘調査報告書 第 9集、小山遺跡発掘調査報告書、西谷15・16号墓発掘調査報告書、天神遺跡第9次

津和野町教育委員会	発掘調査報告書、藤ヶ森南遺跡、喜時雨地区埋蔵文化財試掘調査報告書Ⅰ、喜時雨地区埋蔵文化財試掘調査報告書Ⅱ、高田遺跡Ⅲ、高田地区埋蔵文化財分布調査概要報告書Ⅲ、高田地区埋蔵文化財分布調査概要報告書Ⅳ
頴原町教育委員会 島根大学埋蔵文化財調査研究センター	五明田遺跡、五明田遺跡発掘調査報告書、埋蔵文化財発掘調査報告書 島根大学構内遺跡第6・7次調査(橋本地区1・2)、島根大学構内遺跡第5・9次調査(京田地区1・諸田地区4)
島根大学汽水域研究センター	佐太講武貝塚発掘調査報告書2
<b>【岡山県 33】</b> 岡山県古代吉備文化財センター	
津山弥生の里文化財センター 岡山県教育委員会	所報吉備 第26号・第27号、津島遺跡を探る、旦山遺跡・惣台遺跡・野辺張遺跡・先旦山遺跡・旦山古墳群・奥田古墳・水神ヶ嶽遺跡・津島遺跡Ⅰ・加茂政所遺跡・高松原古才遺跡・立田遺跡・原尾島遺跡(藤原光町3丁目地区)、田益田中(笛ヶ瀬川調節池)遺跡、田益田中(国立岡山病院)遺跡、津寺三木木遺跡・津寺一軒屋遺跡・立田遺跡2・高松原古才遺跡2・加茂政所遺跡2・津寺遺跡6・大成山たら遺跡群、津島遺跡・小松遺跡・道面遺跡・塚地古墳・山形福田遺跡
岡山市教育委員会 笠岡市教育委員会 高梁市教育委員会 総社市教育委員会 久世町教育委員会 勝央町教育委員会 倉敷市立自然史博物館	津山城・資料編・津山弥生の里 第6号、荒神裕遺跡、有元遺跡・男戸島遺跡 岡山県埋蔵文化財報告29 岡山市埋蔵文化財調査の概要 -1997年度-、宗神神社古墳・長坂古墳群 御尊堂遺跡 陣山遺跡・本郷遺跡 総社市埋蔵文化財調査年報9(平成10年度)、奥坂遺跡群 羽庭城 福吉丸山遺跡 自然史博物館だより No.33~No.36、倉敷市立自然史博物館研究報告 第13号・第14号、宇野確雄植物コレクション(7)・(8) 美術館ニュース No.44~No.47
岡山県立美術館 岡山大学埋蔵文化財調査研究センター	岡山大学構内遺跡調査研究年報16-1998年度、岡山大学埋蔵文化財調査研究センター一報 第22号 平尾墳墓群 自然科学研究所研究報告 第24号 岡山理科大学紀要 第34号A、岡山理科大学紀要 第34号B 岡山市立オリエンタル美術館研究紀要16 新修倉敷市史 第2巻「古代・中世」、倉敷の歴史 -倉敷市史紀要- 第9号 高梁川流域の自然 第19号・第20号 重井博先生追悼集、倉敷の自然 第68号・第69号
<b>【広島県 34】</b> (財)広島県埋蔵文化財調査センター	ひろしまの遺跡 第77号~第80号、研究輯録 IX、年報14・年報15、西本3・4号遺跡・移原遺跡発掘調査報告書、風呂之元古墳発掘調査報告書、寺之下・尾原、金田第2号古墳発掘調査報告書、宮山2号遺跡発掘調査報告書、中屋遺跡B地点発掘調査報告書 II、国営備北丘陵公園整備事業に係る埋蔵文化財発掘調査報告書、門田A遺跡・東横木山第1・4号古墳、駅家加茂地区内陸型複合団地造成事業に係る埋蔵文化財発掘調査報告書、廿日市町屋跡、和田原D地点遺跡発掘調査報告書、城遺跡発掘調査報告書 阿岐のまほろば vol.13、旧石井家住宅移築修理工事報告書、吹越遺跡発掘調査報告書、牛王曾原遺跡発掘調査報告書、吹越遺跡発掘調査報告書II、史跡安芸国分寺跡発掘調査報告書 ガラスの勾玉づくり -平成10年度考古学教室記録集、匠の考古学 -日本の巨大建築を掘る-、歴史の扉 第6号、広島城外堀跡紙屋町・大手町地点、塔の岡古墳群、広島城遺跡 基町高校グラウンド地点
(財)東広島市教育文化振興事業団	
(財)広島市文化財団	

広島県教育委員会 府中市教育委員会 福山市教育委員会 庄原市教育委員会 尾道市教育委員会 広島県立歴史博物館 広島県立歴史民俗資料館 新市町立歴史民俗資料館 広島大学統合移転地 埋蔵文化財調査委員会	いぶき No.24・No.25、万德院跡の研究、吉川元春館跡 -第4次発掘調査概要- 府中市内遺跡4 才町茶臼山遺跡 遺跡からみる庄原の歴史、陽内遺跡、郷ノ原古墓 尾道遺跡 -市街地発掘調査概要 -1997 10年のあゆみ、しまなみ海道をめぐる文化財展 歴風 第24号 研究集録第一集「信岡家文書 I」、城山C遺跡、汐首・後池 広島大学統合移転地埋蔵文化財発掘調査年報XV
<b>【山口県 35】</b> 山口県埋蔵文化財センター  下関市教育委員会 長門市教育委員会 阿東町教育委員会 下関市立考古博物館	吉永遺跡、大浦古墳群・梅ヶ崎古墳群、切畑南遺跡、東禅寺・黒山遺跡IV、上関城跡、高野遺跡 田中遺跡 上藤中横穴墓群 常徳寺庭園 あやらぎ No.3、下関市立考古博物館年報4・平成10年度、研究紀要 第3号、弥生の装い -アクセサリーとその呪術性-
<b>【徳島県 36】</b> (財)徳島県埋蔵文化財センター  徳島文理大学文化財学科	真朱 第3号、徳島県埋蔵文化財センター年報 vol.7～vol.10、觀音寺木簡、四国縦貫自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告11、名東遺跡、新蔵町1丁目遺跡 合同庁舎地點(旧知事公舎)、新蔵町1丁目遺跡企業局総合管理センター(旧副知事公舎)地點、庄遺跡II、ウエノ遺跡、庄遺跡III 弁天島古墳群調査概要報告
<b>【香川県 37】</b> (財)香川県埋蔵文化財調査センター  香川県教育委員会	いにしえの讃岐 第25号～第27号、汲仏遺跡、県道関係埋蔵文化財発掘調査概報 -平成10年度、高松城跡、高松城跡 -平成10年度、国道バイパス建設に伴う埋蔵文化財発掘調査概報 -平成10年度、財団法人香川県埋蔵文化財調査センター研究紀要 VII、財団法人香川県埋蔵文化財調査センター年報 平成10年度、讃岐II -こしかた・ゆくすえ-、四国横断自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査概報 -平成10年度、川津川西遺跡、都市計画道路建設に伴う埋蔵文化財発掘調査概報 -平成10年度、八丁目遺跡、本村・横内遺跡、山南遺跡、多肥松林遺跡、国分寺下日名代遺跡、中間西井坪遺跡II、川津川西遺跡、飯山一本松遺跡、国分寺六ツ目遺跡「県史跡 盛土山古墳」範囲確認調査報告書、下大橋・定兼遺跡、旧練兵場遺跡V、香川県中世城館跡詳細分布調査概報 -平成10年度、香川県埋蔵文化財調査年報 -平成10年度、鹿伏・中所遺跡、池ノ下遺跡、川津井手の上遺跡、埋蔵文化財試掘調査報告 XII
高松市教育委員会  丸亀市教育委員会 長尾町教育委員会 寒川町教育委員会 志度町教育委員会 綾南町教育委員会 香川大学経済学部考古学研究室	川南・西遺跡、キモンドー遺跡、奥の坊遺跡群、高松城跡(作事丸)、史跡 高松城跡(地久櫓跡・三ノ丸跡)、筑城城跡 中ノ池遺跡 I 八坂墳墓群・北山八坂古墳、陵遺跡 極楽寺墳墓群 花池尻遺跡、寺尾古墳群 陶畠遺跡発掘調査報告書 中・四国縄文時代研究の現状と課題
<b>【愛媛県 38】</b> (財)愛媛県埋蔵文化財調査センター	まいぶんえひめ No.26、愛比売 -平成7～10年度年報、井門 I 遺跡、井門 II 遺跡、旭方 I 遺跡、旭方I号箱式石棺・柳内遺跡・宮ノ谷遺跡、大川遺跡・正法寺遺跡、上

(財)松山市生涯学習振興財団	井遺跡、鹿の子古墳群・新谷森ノ前遺跡、馬島亀ヶ浦遺跡、馬島ハゼヶ浦遺跡 松山市埋蔵文化財調査年報11・平成10年度・小野川流域の遺跡Ⅱ、松山大学構内遺跡Ⅲ・第4・5次調査、瀬戸戸風崎遺跡、船ヶ谷遺跡・2次調査、乃万の裏遺跡・2次調査地・船ヶ谷遺跡・3次調査地 四国 山本雲溪展図録、藤山歴史資料館展ホームページ全記録
大西町教育委員会	
<b>【高知県 39】</b>	
(財)高知県文化財団	
高知県教育委員会	高知県埋蔵文化財センター年報8・1998年度・西本城跡、奥谷南遺跡Ⅰ、八田奈呂遺跡Ⅰ、天崎遺跡、小籠北遺跡、福井遺跡、浅村遺跡、辺路石南遺跡・五反地遺跡、里改田遺跡・杉ノ本地区・里改田遺跡・室ノ内・岩路地区
土佐市教育委員会	
高知県立歴史民俗資料館	
<b>【福岡県 40】</b>	
(財)北九州市教育文化事業団	埋文こうち 第12号 人麻呂様城跡 岡豊風日 第32号～第35号、高知県立歴史民俗資料館年報No.8・平成10年度
小郡市埋蔵文化財調査センター	紀要・第13号・埋蔵文化財調査年報15、金山遺跡Ⅰ・V区、金山遺跡Ⅲ区、片伊田遺跡4、峠遺跡2、片伊田遺跡5、小倉御城跡、常磐横西勢溜り跡、重留遺跡第2地点、永犬丸遺跡群3、園田浦城跡、光照寺遺跡1、光照寺遺跡2、長野角屋敷遺跡、御座遺跡群、御座古墳群、中貴遺跡 市内遺跡等分布地図、干潟向ヶ浦遺跡、寺福童内細下道東遺跡、埋蔵文化財調査報告書3、井上魔寺1、大崎中ノ前遺跡2、勝負坂遺跡M地点、三沢権道2遺跡、力武前畠遺跡、大板井遺跡VII、小郡官衙周辺遺跡1、小板井ぐうてさん遺跡、大板井遺跡X III、大板井遺跡X IV、大板井遺跡X V、大保龍頭遺跡2、大崎小園遺跡3、大保横枕遺跡、小板井屋敷遺跡、大保龍頭遺跡1
久留米市埋蔵文化財センター	上津・藤光遺跡群、筑後国府跡・第152次調査・筑後国府跡・第155次調査発掘調査概要、二木本遺跡・第14・15次調査、一の左右遺跡・荒木今宮脇遺跡、上津・藤光遺跡群II、野中前遺跡、白口経塚遺跡、山川南本村遺跡、筑後国府跡・国分寺跡、平成10年度 久留米市内遺跡群、ヘボノ木遺跡、筑後国府跡・第159次調査報告・貝元遺跡II、九州横断自動車道関係埋蔵文化財調査報告・53～56、福岡県埋蔵文化財発掘調査年報・平成8年度・百留居屋敷遺跡、上唐原了清遺跡I、以尺遺跡III、堀池口ヶ坪遺跡、鷹取五反田遺跡II、船越二ノ上遺跡 福岡市埋蔵文化財年報vol.12、那珂京体遺跡群VII、下和白後口古墳群、蒲田部木原遺跡群6、堅粕3、箱崎7、箱崎8、博多66、博多67、比恵27、比恵遺跡群28、那珂22、那珂23、大井遺跡、吉武遺跡群X I、板付周辺遺跡調査報告書第20集、南八幡遺跡群、野多目A遺跡5、弥永原遺跡4、博多68、藤崎13、藤崎遺跡14、有田・小田部32、福岡外環状道路関係埋蔵文化財調査報告・6、井相田D遺跡・第2次調査、田村14、猪六町亀田1・次郎丸高石・田村13、入部IX、室見が丘、飯氏古墳群第B群第14号墳調査報告書(2)、橋本一丁田遺跡・女原遺跡、広石南古墳群A群、峯遺跡2、大坪遺跡・大坪南遺跡、湯脰館跡10 大野城市の文化財 第31集・大野城市的民具、中・寺尾遺跡III、森園遺跡II、石勺遺跡IV
福岡県教育委員会	
福岡市教育委員会	
大野城市教育委員会	伊都国と卑弥呼の時代、伊都国を歩こう、最近話題の遺跡と遺物 練原遺跡 下高橋(上野・馬屋元)遺跡IV、富田若草遺跡I・II・III 発掘された弥生時代の木の文化 九州歴史資料館年報・平成10年度・九歴大よりNo.9・No.10 怡土城とその時代 経塚横穴墓群・古墳群 温故 第29号 倉瀬戸古墳群II
前原市教育委員会	
津屋崎町教育委員会	
大刀洗町教育委員会	
北九州市立考古博物館	
九州歴史資料館	
伊都歴史資料館	
田川市石炭資料館	
甘木歴史資料館	
福岡大学人文学部考古学研究室	

<b>【佐賀県 41】</b>	
佐賀市教育委員会	江頭遺跡・森田遺跡、ウ一星敷遺跡、牟田寄遺跡Ⅶ、長瀬一本杉遺跡・高木城跡、江頭遺跡、坪の上遺跡Ⅱ、徳水遺跡9区、上和泉遺跡6区、上和泉遺跡11区・13区、東瀬遺跡1区
鎮西町教育委員会	平野町遺跡
玄海町教育委員会	藤田家文書目録、峯家文書目録
佐賀県立博物館	佐賀県立博物館・美術館報 No.121・No.123、調査研究書[第23集]
<b>【熊本県 43】</b>	
人吉市教育委員会	史跡 人吉城跡IX、史跡 人吉城跡X
<b>【大分県 44】</b>	
豊後高田市教育委員会	豊後高田地区遺跡群発掘調査概報 VII～XV、大原鬼塚古墳、寺田今藤遺跡、寺田卯月遺跡、割掛遺跡
千歳村教育委員会	原田第2遺跡原地区、五郎丸遺跡、大迫岩ノ下遺跡
大分県立歴史博物館	六郷山寺院遺構確認調査報告書VII
<b>【宮崎県 45】</b>	
高岡町教育委員会	天ヶ城跡、小田元遺跡・久木野遺跡(5～7区)
<b>【鹿児島県 46】</b>	
垂水市教育委員会	後ヶ迫A遺跡、柊原貝塚
鹿児島大学埋蔵文化財調査室	鹿児島大学埋蔵文化財調査室年報13
<b>【個人・その他】</b>	
間壁蔵子	古代出雲の医薬と鳥人
全国公立埋蔵文化財センター連絡協議会	公立埋文協会報第23号
全国埋蔵文化財法人連絡協議会	全国埋文協会報 No.53
(株)あかね書房	古墳・飛鳥時代

## 附編

# 山本慶一氏寄贈の資料 I

藤原好二

### 1.はじめに

今回紹介する資料は、長く市の文化財保護審議会委員を務められ、1993年に永眠された山本慶一氏が、倉敷埋蔵文化財センターに寄贈された資料である。氏は長年にわたって倉敷市児島周辺の遺跡の研究及び遺物の収集につとめられた。氏が採集した鷲羽山遺跡の石器<sup>(1)</sup>は瀬戸内地域の旧石器時代研究の基本資料となるなど、学術的に貴重なものがある。鷲羽山の遺物は現在、倉敷考古館に保管されているが、当センターにもその他の多くの資料が保管されている。これらの中から今回は下津井城跡採集の瓦類を紹介することとする。

### 2.下津井城跡採集の瓦

下津井城は慶長8(1603)年に岡山藩家老池田長政が城主となり、現在見られるような総石垣の近世城郭に整えたとされている。寛永16(1639)年に廃城となり、建物はもちろん石垣も角部を中心に徹底的に破壊されている。現在は公園として整備されているが、崩れた石垣の下に当時の瓦が散乱している<sup>(2)</sup>。

下津井城跡採集の瓦としては、軒丸瓦53点・軒平瓦46点・鬼瓦等その他23点がある。この中には現在の円福寺の瓦も混入していることが判明しており、すべてが下津井城のものであるとの確証はないことをあらかじめお断りしておく。

#### 軒平瓦(1~19)

瓦当文様から分類し、19種類が認められる。このうち10種類は発掘調査によっても下津井城のものであることが確認されている。すべてが焼成瓦であるが、炭素の吸着度の低いものが多い。平瓦凹部に布目痕を残すものではなく、横ナデで仕上げている。

1は中心飾が五葉だが、唐草は一転で脇区が広く新しい様相を示す。同范あるいは同範の同文例はこれまでの発掘調査では最多の25点が確認されており、下津井城では中心的な瓦範と考えられる。また、池田氏と関係の深い姫路市心光寺に同范あるいは同範の同文例があり、池田長政が下津井城を改修した際のものと考えられる<sup>(3)</sup>。

2~10は中心飾が三葉、あるいは類似形態のものである。2は外側の唐草がV字状に変形している。凸線表現で葉脈の表現のない6および、7の中心飾は蓮華だろうか。7は岡山城二の丸に類似品がある<sup>(4)</sup>。また、同范あるいは同範の同文例を含めて、胎土が砂っぽく石英粒が多く含むのが特徴である。8の中心飾先端は樹状になる。9・10は中心飾が垂下する三葉で、脇区が狭い。9と同范あるいは同範の同文例は1について数が多いが、焼成のあまい個体が多い。2・3・5・9は岡山城に同范ある



軒平瓦 ( $S = 1/4$ )

いは同範の同文例がある<sup>(3)</sup>。

11～14の中心飾は凸線表現による宝珠である。13は脇区が狭い。岡山城に類似品が見られる<sup>(4)</sup>。14は唐草5転程度の範を切りつめている。二次的に火を受けているらしく、表面の劣化が激しい。古代から中世の寺院に類似の文様がみられることから、転用瓦あるいは下津井城跡以外での採集品の

可能性がある。

15は岡山城本丸中の段72と同範あるいは同範的同文と考えられる。中心飾は凸線三葉と推定される<sup>(5)</sup>。16・17の中心飾は不明である。17の唐草の間に斜めにはしる凸線は范傷と考えられる。

18は脇区が広く、唐草がオタマジャクシ状を呈することから、新しいものではないかと考えられる。下津井城跡以外での採集品ではないだろうか。19は葛葉状の中心飾を持ち、やはり脇区が広い。幕末前後の丸亀産のもので、下津井城跡西の丸の南西麓に所在する円福寺の瓦である<sup>(6)</sup>。

#### 軒丸瓦(20～37)

瓦頭文様から分類し、18種類が認められる。このうち8種類は発掘調査によっても下津井城のものであることが確認されている。軒平瓦と同様、すべてが焼し瓦である。瓦当は丸瓦端と瓦当双方にクシ条線を施した顎部貼り付け、丸瓦外面は板状工具による縦ナデである。

20は桐文瓦の破片かと考えられるが、小片のためはっきりしない。

右巻き三巴は21・22の2種類しかなく、左巻きと比べると圧倒的に少ない。しかし下津井城で同範あるいは同範的同文例が最も多いのは22の26点である。22は巴尾部が圓線をなす。外周部の形態が整っておらず、焼成はあまりものが多い。21・22ともに岡山城に同範あるいは同範的同文例がある<sup>(5)</sup>。

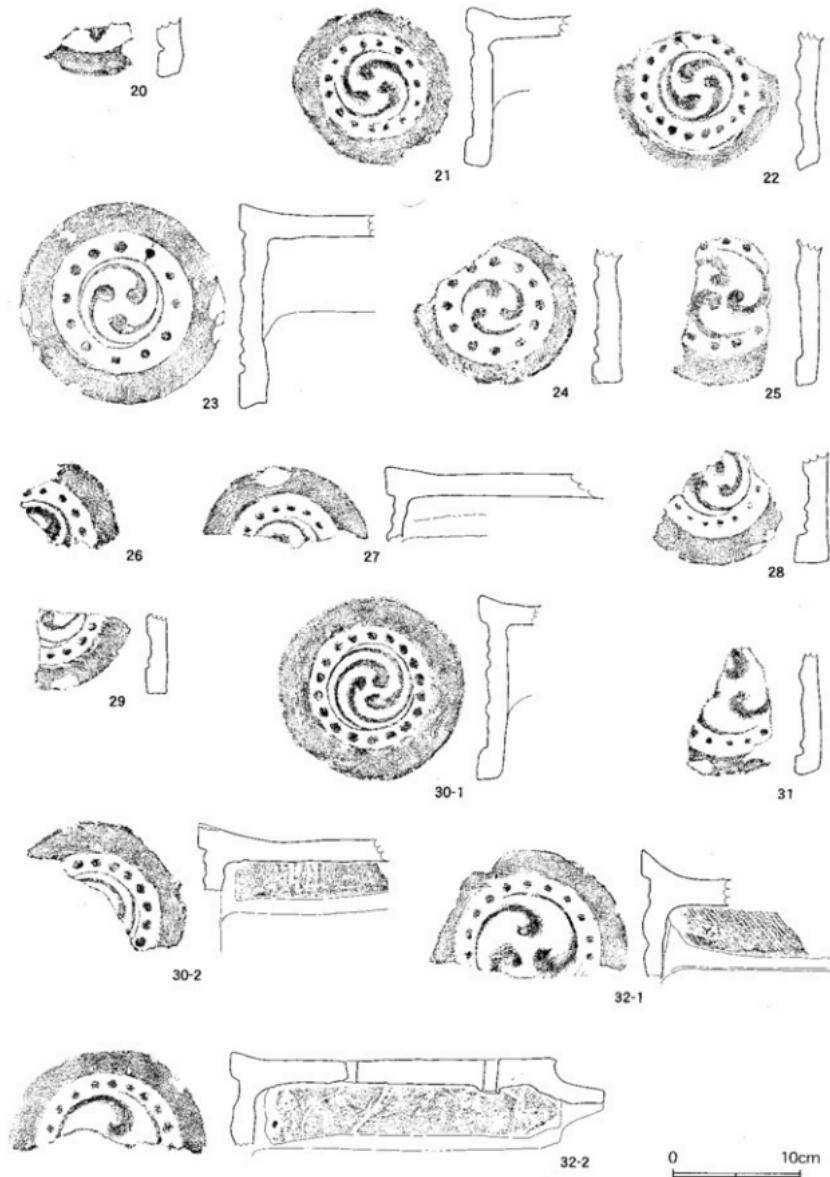
左巻き三巴は15種類が認められる。8～30・34・35は三巴の外側に圓線をなすか、それに近いものである。23は資料中最大のもので、巴・珠文の頂部が平らになっている。炭素の吸着も良好であるが、胎土はやや砂っぽく色も白色に近い。24は巴尾部がかなり短くなり、珠文が大きくなっている。25・31・32は巴頭部がC字形をなしている。30の同範あるいは同範的同文例は寄贈資料中に11点が確認できるにもかかわらず、発掘調査では1点も出土していない。32も下津井城の軒丸瓦の中では大型のもので、同範あるいは同範的同文例にはコビキAの個体が認められる。また、胎土が砂っぽく石英粒を多く含むのが特徴である。33は調査では比較的多く確認されている。巴頭部が大きく、尾部は長くのびる。36も調査によって同範あるいは同範的同文例の完形品が出土しており、珠文数は26個、コビキAの個体が見られ古相を示す。37は巴頭部が大きく、珠文の径も大きい。珠文の数は不明だが少ないものようである。左巻き三巴の軒丸瓦ではこれまで岡山城に同範あるいは同範的同文例が確認されているのは29だけである<sup>(5)</sup>。

#### その他の瓦(38～46)

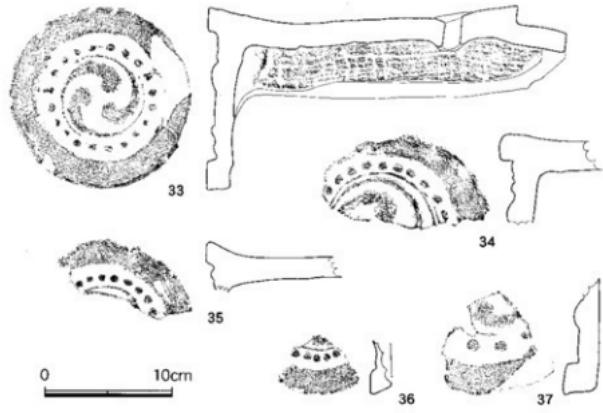
38は菊と考えられる意匠の鬼瓦である。裏面は外周を残して彫り込まれている。器面・断面とともに灰白色で、胎土生地は微粒で少量の長石を含む。

39は鰐瓦の眼にあたる部分である。眼は立体的な表現なのに対して、鱗は線刻のみで表現されている。器面は明青灰色、断面は灰白色で、胎土生地は微粒である。右方に径8mm程度の固定用釘孔を持つ。

40～42は鬼瓦の一部だろうか。40・41は複弁の菊文である。ともに器面は暗灰色、断面は灰白色で、胎土生地は微粒である。42は弦状の文様を断面台形の立体的に表現したものだが詳細は不明である。器面は青灰色、断面は灰白色で、胎土生地は微粒である。



軒丸瓦 1 (S = 1/4)



軒丸瓦2(S = 1/4)

当資料中の下津井城跡採集とされる瓦の中では唯一、外面に縄目のある個体である。45は器面は暗灰色を呈し、内面は細かい布目、吊紐痕を伴いコビキはAである。46は完形丸瓦で器面は暗灰色である。内面は細かい布目、コビキはBである。

### 3.おわりに

倉敷埋蔵文化財センターでは1997・1998年度に下津井城跡本丸周辺の発掘調査を実施しており、瓦も多く出土している。瓦に関する本格的な考察は報告書に譲るとして、本資料の中で気づいたことを若干述べてみたい。

まず、岡山城との同范あるいは同範的同文例として、軒平瓦5種類・軒丸瓦3種類が確認できる。軒平瓦3・軒丸瓦29は岡山城II期に、軒平瓦2・5・15・軒丸瓦21・22は岡山城IV-b期にそれぞれ該当する同范あるいは同範的同文例が存在する。岡山城II期は宇喜多氏の時代に比定されているが、これがただちに下津井城が宇喜多氏の時期に總石垣・礎石建物・瓦を使用した近世城郭として存在していたことを示すわけではない。別の城郭あるいは別種の建築物に一度使用された瓦の流用、あるいは古い型范の後年になっての使用といった状況も考えられる。今後の検討が必要な点であろう。

次に岡山城IV-b期は池田忠継(池田利隆執政)と推定されている。慶長8年から下津井城の大改修を行った池田長政は利隆の家老であり、これらの瓦は下津井城大改修の際に導入されたものとしてよいだろう。

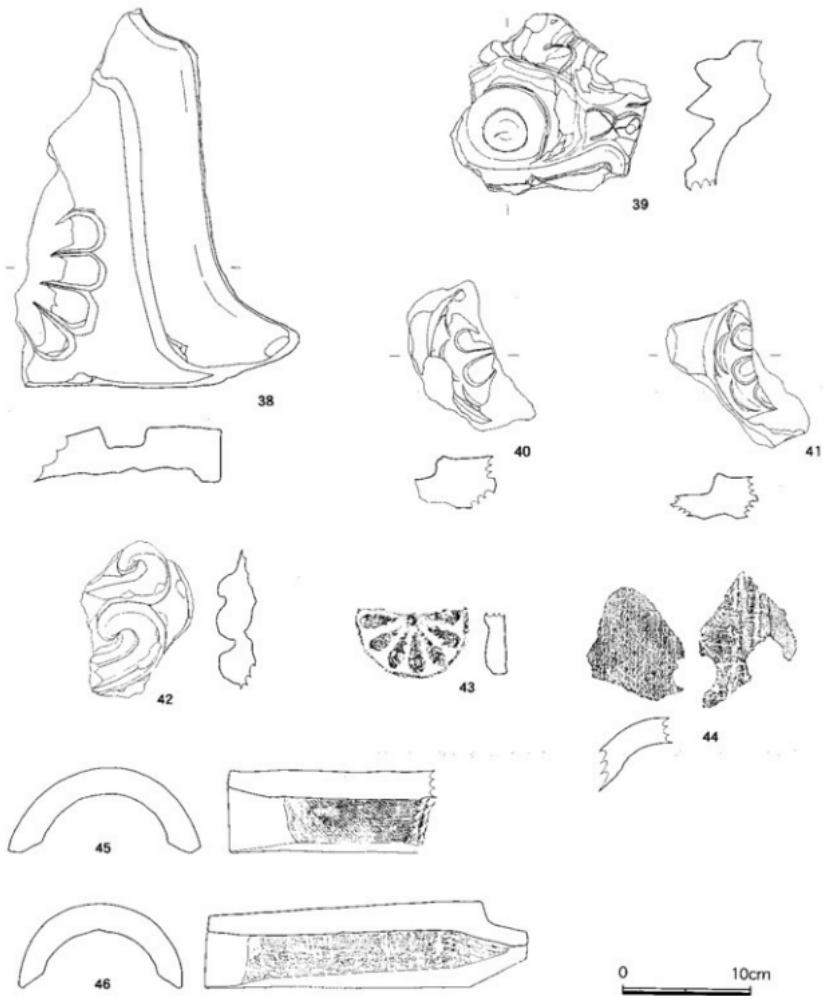
軒平瓦1は姫路市心光寺に同范あるいは同範的同文例が存在しているが、岡山城では確認されていない。池田長政が播磨から独自に随伴した工人に焼かせたか、あるいは直接播磨から船で瓦を輸送したこととも想定される。今後、胎土分析などによって、焼成地を推定していく必要があるだろう。いずれにしても池田長政が本藩とは別に独自の入手経路を持っていたといえる。

一方、その資材を利用したとの記録が『東備郡村志』<sup>(7)</sup>にある常山城との同范あるいは同範的同文

43は菊文の練込瓦だろうか。径8.9cm、厚さ14mmで外周部がなく単弁表現、花弁は12枚と推定される。器面は黒色、断面は灰白色で、胎土生地は細粒である。

44～46は丸瓦である。

44の器面は灰白色を呈し、外面は縦目を縱方向にナデ消している。内面はコビキは不明であるが、細かい布目が残る。



その他の瓦 ( $S = 1/4$ )

瓦は確認されていない。これは発掘調査で出土した瓦においても同様である。『東備郡志』はその成立が江戸時代後期であり、内容に誤りがあるのかもしれない。あるいは瓦ではなく、柱などの木材のみの利用であったのかもしれない。

最後に、軒丸瓦30の同範あるいは同範の同文例は、山本慶一氏採集資料の中には11点と多くあるが、発掘調査では出土していない。発掘調査は本丸周辺の限定された範囲で行われたのみなので、別

の郭でのみ使用された瓦の可能性もある。

山本慶一氏が亡くなられて8年、遅ればせながら資料の一端を公表することができた。貴重な資料を寄贈いただいたことに感謝するとともに、氏のこれまでの業績をたたえ、ご冥福をお祈りしたい。

註(1) 山本慶一「鷲羽山遺跡の石器と土器」『倉敷考古館研究集報』第6集 1969

(2) 山本慶一『備前 下津井城』児島鷲羽ライオンズクラブ 1988

(3) 浜岡きみ子編『妙京寺の瓦』津名郡一宮町教育委員会 1990 乗岡 実氏のご教示による。

(4) 松本和男・乗岡 実・氏平昭則『岡山城二の丸跡』中国電力内山下変電所建設事業埋蔵文化財調査委員会1998

(5) 出宮徳尚・乗岡 実・仲井光代・岡嶋隆司『史跡整備保存事業 史跡岡山城本丸中の段発掘調査報告』岡山市教育委員会 1997

(6) 乗岡 実『岡山市近郊における近世瓦の生産と流通』『岡山市の近世寺社建築－岡山市歴史的建造平成6・7年度調査報告－』岡山市教育委員会 1996

(7) 『東備郡村志』江戸時代後期成立の地誌(『吉備郡書集成第二輯』収録)

#### 軒丸瓦・軒平瓦凡例(『岡山城本丸中の段』の凡例を流用)

\*番号は図版番号と一致する。枝番は分類上同じもののうちで、個体番号を示す。

\*軒平瓦の中心部は形態上の分離で、瓦製作者の意図とは異なる場合もありうる。

\*軒丸瓦の縁文数での()は、四版掲載外の別個体からの判別もしくは遺存破片からの想定。

\*法量・筋土などは掲載範囲外のデータで、同版掲載外の別個体では異なる場合もある。()内は四版掲載外の別個体からの判別もしくは遺存個体からの想定。

\*軒平瓦の上角部は、瓦当面と平瓦四面のなす角の面取り状況で、Aは幅約1cm以上で幅広い面取りが瓦当左右端まで及ぶもの、Bは幅狭く面取りが瓦当左右端まで及ばないもの、Cは幅狭く瓦当左右端まで及ぶもの、Dは幅狭く瓦当左右端まで及ばないもの、×は面取りがないもの、-は確認不能のものを示す。

\*軒丸瓦の法量のうち、外径は瓦当部の直径、文様区径は、文様区外縁の直径、巴径は巴の尾部端を結ぶ円の最大直径。

\*軒丸瓦の丸瓦部内面の特徴のうち、コビキはA・Bで示し、その痕跡が確認できないものは×、破片の状況で該当部が確認できないものは空白とした。

布目の「織」はガーゼ状、「粗」はゴザ状の仕編を示し、その痕跡が確認できないものは×、破片の状況で該当部が確認できないものは空白とした。

\*面面色は焼による炭素吸着を念頭に最も濃い部分を示した。断面色は芯部を示した。断面構造は、單一色調のものは「単」、断面間に薄く真色層をなすものを「表」、芯部に対して断面側面層も一定の厚みを持つ三層構造を「三」とした。また、異なる性質・発色の動土が織かれた断面構造をなすものを「波」とした。

筋土生地の粒子の大きさは、「微」「細」「妙」で示した。「妙」とは含有砂粒とは別に、筋土全体が砂っぽいことを示す。

特徴的含有賦物のうち、「S」は石英など白色系賦物・砂粒、「T」は茶～赤褐色に発色する鉱物類ないしクリア巣、「K」は黒～暗灰色殻を示す。

\*点数は、他と接合できない破片数を示し、織織的な意味での個体数ではない。発掘調査の点数は1999年3月時点でのものである。地点別の点数については、後日発行予定の報告書に記載する予定である。

\*考古の遺跡名は、同地から同地に近い同文資料に取っての所在地。

下津井城跡採集瓦一覽表

平瓦

軒丸瓦

通称	文種	俗文種	外形	交配結果	巴形	コビ牛	母牛	新鮮度			生地	冷物	山牛二丁	熟成度	肉質	保存方法	有病蟲害
								色	味	香							
20	瘤	左角三巴	15	(12.0)	13.1	6.1	—	褐灰色	淡白色	無氣味	黃	淡	T	—	—	418	—
21	瘤	右角三巴	19	—	13.1	6.1	—	灰褐色	灰褐色	無氣味	黃	淡	K	—	—	415	—
22	瘤	左角三巴	22	—	16.4	9.5	X	黃褐色	黃褐色	無氣味	黃	淡	S	K	—	420	—
23	瘤	右角三巴	12	—	13.1	9.3	—	黃褐色	黃褐色	無氣味	黃	淡	—	—	—	400	—
24	左角三巴	12	—	13.1	9.3	5.4	—	黃褐色	黃褐色	無氣味	黃	淡	—	—	—	381	—
25	左角三巴	13~14	—	14.5	9.9	7.2	—	黃褐色	黃褐色	無氣味	黃	淡	—	—	—	391	—
26	左角三巴	15	—	(13.8)	(8.4)	(6.4)	—	黃褐色	黃褐色	無氣味	黃	淡	—	—	—	407	—
27	左角三巴	15	—	(1.5)	(1.3)	(0.2)	—	黃褐色	黃褐色	無氣味	黃	淡	—	—	—	365	—
28	左角三巴	16	—	12.8	8.1	5.4	—	黃褐色	黃褐色	無氣味	黃	淡	—	—	—	383	—
29	左角三巴	16	—	(12.4)	(8.6)	(6.0)	—	黃褐色	黃褐色	無氣味	黃	淡	—	—	—	396	—
30	左角三巴	18	—	14.6	9.7	7.9	—	黃褐色	黃褐色	無氣味	黃	淡	—	—	—	426	—
31	左角三巴	18	—	(14.4)	(9.4)	(6.4)	—	黃褐色	黃褐色	無氣味	黃	淡	—	—	—	377	—
32	左角三巴	19	—	15.3	11.0	8.5	A	黃褐色	黃褐色	無氣味	黃	淡	—	—	—	419	—
33	左角三巴	20	—	15.2	10.7	8.5	B	黃褐色	黃褐色	無氣味	黃	淡	—	—	—	423	—
34	左角三巴	25~26	—	14.5	10.0	6.9	B	黃褐色	黃褐色	無氣味	黃	淡	—	—	—	376	—
35	左角三巴	25~26	—	(17.2)	(12.2)	(10.2)	—	黃褐色	黃褐色	無氣味	黃	淡	—	—	—	409	—
36	左角三巴	25~26	—	(15.0)	(11.0)	(8.0)	—	黃褐色	黃褐色	無氣味	黃	淡	—	—	—	410	—
37	左角三巴	25~26	—	(12.0)	(8.0)	(6.0)	—	黃褐色	黃褐色	無氣味	黃	淡	—	—	—	406	—
38	左角三巴	25~26	—	(14.0)	(9.0)	(6.0)	—	黃褐色	黃褐色	無氣味	黃	淡	—	—	—	384	—
39	左角三巴	25~26	—	(13.4)	(10.4)	(7.2)	—	黃褐色	黃褐色	無氣味	黃	淡	—	—	—	390	—

**倉敷埋蔵文化財センター年報7**  
-平成11(1999)年度-

平成12年11月30日 印刷発行

編集・発行

倉敷埋蔵文化財センター

〒712-8046 岡山県倉敷市福田町古新田940 番地

Tel 086-454-0600

The Annual Report  
Of  
Kurashiki Archaeological Center

---

Volume 7 1999



Kurashiki  
Archaeological Center

---

November 2000